令和元年度　文部科学省指定
令和元･2年度　佐賀県教育委員会指定
道徳教育の抜本的改善･充実に係る支援事業

道徳教育研究発表会

（2年次）

【研究主題】

心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育

～　学校・地域とのつながりを通して　～

令和２年１１月９日（月）
江北町立江北中学校

はじめに

江北町立江北中学校
校長　納 塚　定 生

本日は、ご多用の中、令和元・２年度文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」に係る道徳教育研究発表会にご参観いただき、誠にありがとうございました。

本事業は２年次の研究でありましたが、コロナ禍の現状で、６月文部科学省主催の事業中止の通知を受け、佐賀県研究指定校事業のみに変更になりました。昨年度、「地域の実態や課題に応じた特色ある道徳教育」の事業内容で、江北小学校と連携した研究実践に取り組んできました。そういう意味では、本日は小中及び家庭や地域と連携した取組実践の発表会でなければなりませんでした。研究指定を受け、１年次は学習指導要領（道徳科）の完全実施の年であったこともあり、まずは小中連携を図りながら「考え、議論する道徳」の授業づくりに重点を置くことにしました。それとともに地域や家庭に目を向けた道徳教育の在り方を探り、２年目に家庭や地域と連携した実践に取り組もうという計画でいました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨時休業、行事の中止や延期、規模縮小、対話活動の制限、地域行事の中止、地域人材活用の制限など多くのことができなくなってしまいました。これまで折角、全教師で授業づくりや心の教育を支える基盤づくりを実践してきたこともあり、十分な研究実践ができていませんが本日研究発表会を開催することとしました。

昨年度からこの研究指定を受けると同時に、本町でコミュニティ・スクールが導入されることもあり、小中共通の学校教育目標を「自ら学び心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」と設定し、義務教育９年間でめざす児童生徒の育成を図るようにしました。また、本年度は、教育目標をより具現化するために、江北町内の教育関係機関（幼児教育センター、２つの保育園）とも連携を図り、「発達段階におけるめざす子どもの姿」のマトリックス表を作成し、０歳から 15 歳までの発達段階を踏まえためざす園児、児童生徒の育成を図ることにしました。

即効性のある道徳科の指導を求める声を聞くことがありますが、教育は長い営みですので、心に少しずつ染み入るように生徒の道徳性の涵養を図りたいと考えています。さらに、このような突然の感染症拡大の状況もあり、将来の変化を予測することが困難なこれからの時代を生き抜く生徒たちに、自己有用感を高め、よりよい社会の実現と幸福な人生を自ら作り出していく力を、道徳教育を中心に育むことは必要不可欠なことだと考えます。

本日は、研究の構想や計画はあったものの、コロナ禍の中で実践ができずに研究計画の紹介で終わるものもあります。まだまだ研究の入り口に立ったばかりですので、ご参観の皆様には、忌憚のないご意見、ご指導をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、これまでの研究に懇切丁寧にご指導・ご助言いただきました佐賀県教育委員会、西部教育事務所指導主事 河村賢 様、佐賀県教育センター 高取須賀子 様、武雄市立橘小学校 大宅正樹 様、江北町教育委員会並びにご支援ご協力いただきました地域の皆様や保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和２年 11 月９日

１ 日 程

13:00　13:30　　13:35　13:40　　14:30　　14:45　　15:40　15:55　16:35

受付	日程説明	移動	公開授業 １年・２年・３年	移動 休憩	※授業研究会 （公開授業会場）	移動	講話 （パソコン室）

※授業研究会は、それぞれの会場（各教室）で行います。

２ 公開授業

１３：４０～１４：３０

学級	内容項目	教材名	授業者
１年２組	Ｃ－（12） 社会参画、公共の精神	本が泣いています	大屋友紀子 田中　晋一
２年３組	Ｂ－（６） 思いやり、感謝	愛	内山　啓子 森　　茂
３年２組	Ｃ－（10） 遵法精神、公徳心	缶コーヒー	重松　健太 井上三智子

３ 授業研究会及び指導助言者

１４：４５～１５：４０

授業研究会	指導助言者	会場
１年部会	指導主事　河村　　賢　　（西部教育事務所）	１年２組
２年部会	研 修 員　高取須賀子　　（佐賀県教育センター）	２年３組
３年部会	教　　諭　大宅　正樹　　（武雄市立橘小学校）	３年２組

４ 講話

１５：５５～１６：３５

講　師　　江上　　緑　　指導主事　（佐賀県教育委員会学校教育課特別活動担当）

演　題　　「　確かな道徳教育の展開と評価を踏まえた道徳科の授業改善　」

講　話

演題「 確かな道徳教育の展開と評価を踏まえた道徳科の授業改善 」

講師　江上　　緑　指導主事
（ 佐賀県教育委員会学校教育課特別活動担当 ）

Memo

1　研究主題

心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育
～学校・地域とのつながりを通して～

（江北町立江北小学校と同時指定事業）

2　主題設定の理由

(1)　今日的な観点から

今日、わが国はグローバル化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となってきている。このような社会の中で子どもたちがこれからの社会を生き抜くために「生きる力」の育成がより一層必要となってきている。

そのような現状を踏まえ、道徳科では答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自己の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への転換が図られている。新学習指導要領においても「問題解決的な学習」や「体験的な学習」、「多面的・多角的な考え」などに重点が置かれることとなった。この新学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳教育を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育み、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが求められている。

(2)　児童・生徒の実態から

江北小学校・江北中学校はそれぞれ一町一校という環境上の特性から、児童生徒は幼保の頃を含めると９年以上の長い期間に渡り、同一集団の中で学んでいる。集団の構成員が変わらないため友人関係が固定化しやすく、配慮が必要である生徒も少なくない。また近年は、不登校や不登校傾向、困り感を抱える生徒など、個別に支援を必要とする生徒が増加している。

児童生徒は全般的に素直で明るいが、自己表現が苦手で積極性に欠ける子どももおり、自己肯定感が高いとは言い難い。自分なりの思いをもち、それを相手に伝える力や望ましい人間関係を構築する力も脆弱で、支持的風土も十分に醸成されていないという課題も見られる。

そこで小・中学校では道徳科の授業を中心とし、全教育活動を通して道徳教育の充実を図る連携教育を行い、児童生徒が小中９年間の学びの中で自分自身・他者・地域社会・生命・自然と関わりを通し、自分なりに生きていこうとする実感を深め、自他を認め合い、よりよく生きる心豊かな児童生徒を育みたい。

(3)　道徳教育・学校教育目標の具現化として

江北町は「子や孫が誇れる町づくり」を町の大きな指針に掲げ、教育・子育て支援に取り組んでいる。学校教育においてはコミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が連携し、心身ともに明るく健康でたくましい子どもの育成を目指している。

そのような中で令和元・２年度、江北小学校・江北中学校は文部科学省・佐賀県教育委員会の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受け、道徳授業の実践、職員の合同研修や相互授業参観、合同でのあいさつ運動や教育講演会などを通して連携を深めてきた。

本年度については、コロナウイルス感染症拡大防止のため文部科学省における事業は中止となった。昨年度から「自ら学び心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」という小中共通の学校教育目標を設定した。それぞれの発達段階で育みたい児童生徒像を明らかにし、小中９年間を通して心豊かな児童生徒の育成を目指してきた。

道徳科の授業や体験を通して、人間としてよりよく生きるために必要な道徳的価値や行動を学び、一人一人の児童生徒に道徳性の基盤を確立していきたい。それらの道徳性を日々の生活や自己の生き方に結び付けて考えることで、自他を認め合うことのできる心豊かな児童生徒の具現化につながると考え、本主題を設定した。

３　研究の目標

道徳教育の目標に示されているように、学校における道徳教育は道徳科を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達の段階を考慮して適切に指導を行わなければならない。この教育活動全体を通して、共通理解のもと、学校全体で取り組める良さは、道徳教育の特質の一つである。教科担任による指導体制をとる中学校においても、共通した実践方法で取り組むことで、成果として教師自身の資質の向上と生徒の健やかな成長を共有することができると考える。道徳教育の連続性、一貫性の観点から、小中共通の教育方針（学校教育目標）で江北小学校・江北中学校が連携して取り組むことにより、家庭、地域社会を巻き込んで本町全体で豊かな心をもった児童生徒の育成を図る。

４　研究の仮説

道徳科の授業を通して、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、地域の行事や体験活動に取り組むことで、道徳的な資質や能力を高め、社会の中で人間としてよりよく生きていこうとする意識や態度が養われるであろう。

５　研究の内容

(1)　授業づくり推進部

- 道徳科の授業の指導法の工夫と改善
- 研究授業の計画と授業研究会の実施
- 教材の共有化および資料の保存
- 生徒・保護者の道徳性に関わる実態と課題の把握

(2)　体験活動推進部

- 小中合同でできる体験活動を模索し、生徒会活動や清掃活動、ボランティア等の活動の実施
- 各活動の中で、家庭や地域へとつながっていく体験活動の実施

(3)　心の教育推進部

- 生徒同士、教師と生徒間の関係づくりの構築
- 生徒の出番を増やす場の設定

６　研究の方法

(1)　授業づくり推進部

- 全職員によるＴＴで授業実践
- 研究授業と授業研究会（講師招聘による指導助言、講話）
- 理論研修会（講師招聘）
- 校務サーバ内における学年毎のデータ管理
- アンケートの実施と集計・分析

(2)　体験活動推進部

- 校務分掌などに基づいた役割分担での体験活動の実施
- 家庭への通信（道徳通信）の発行と道徳コーナーの設置

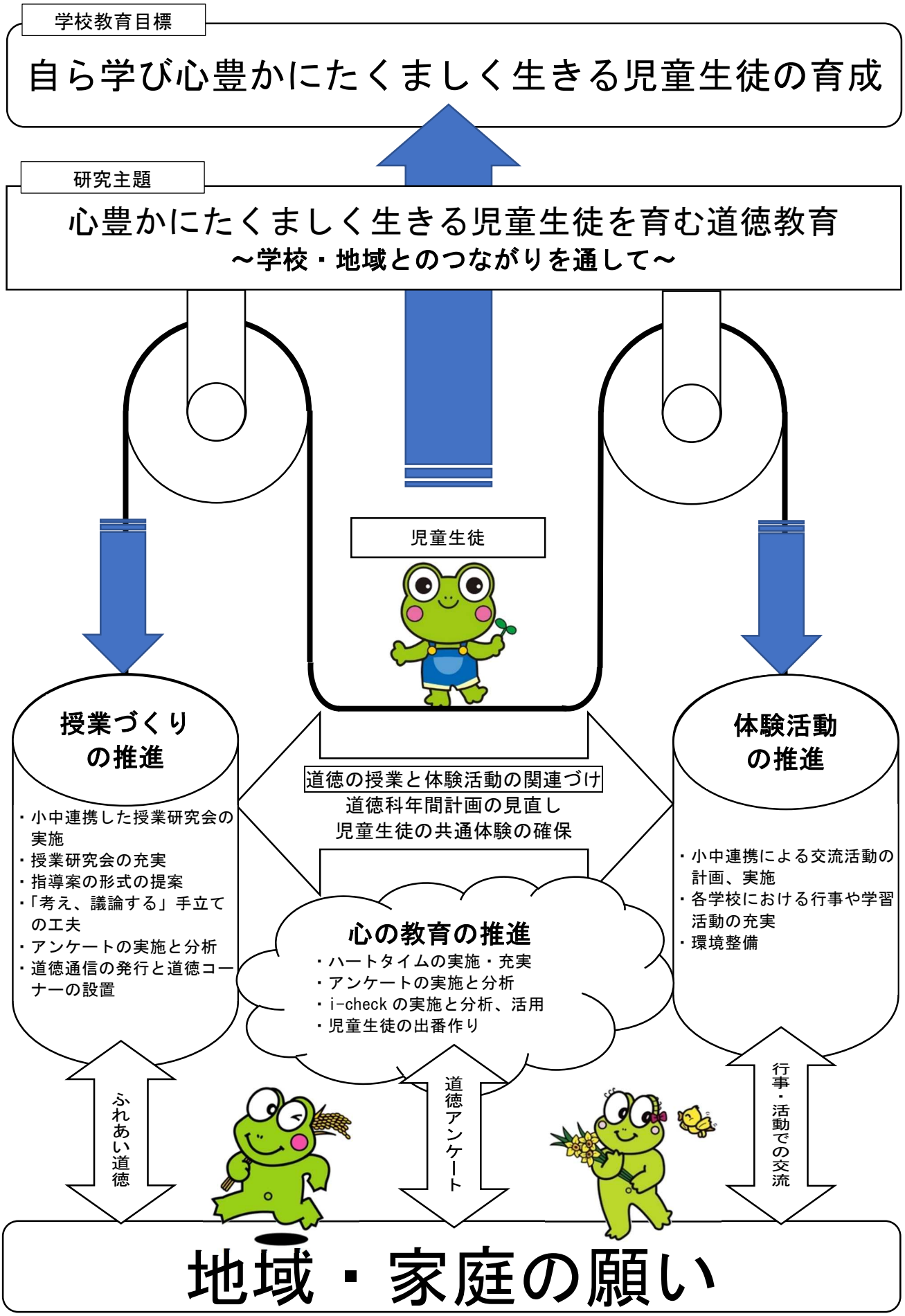
(3)　心の教育推進部

- 日々の教育活動に新たな価値の付加と教師の意識向上
- 学級委員や生徒会と連携した活動とアンケートの実施と集計・分析

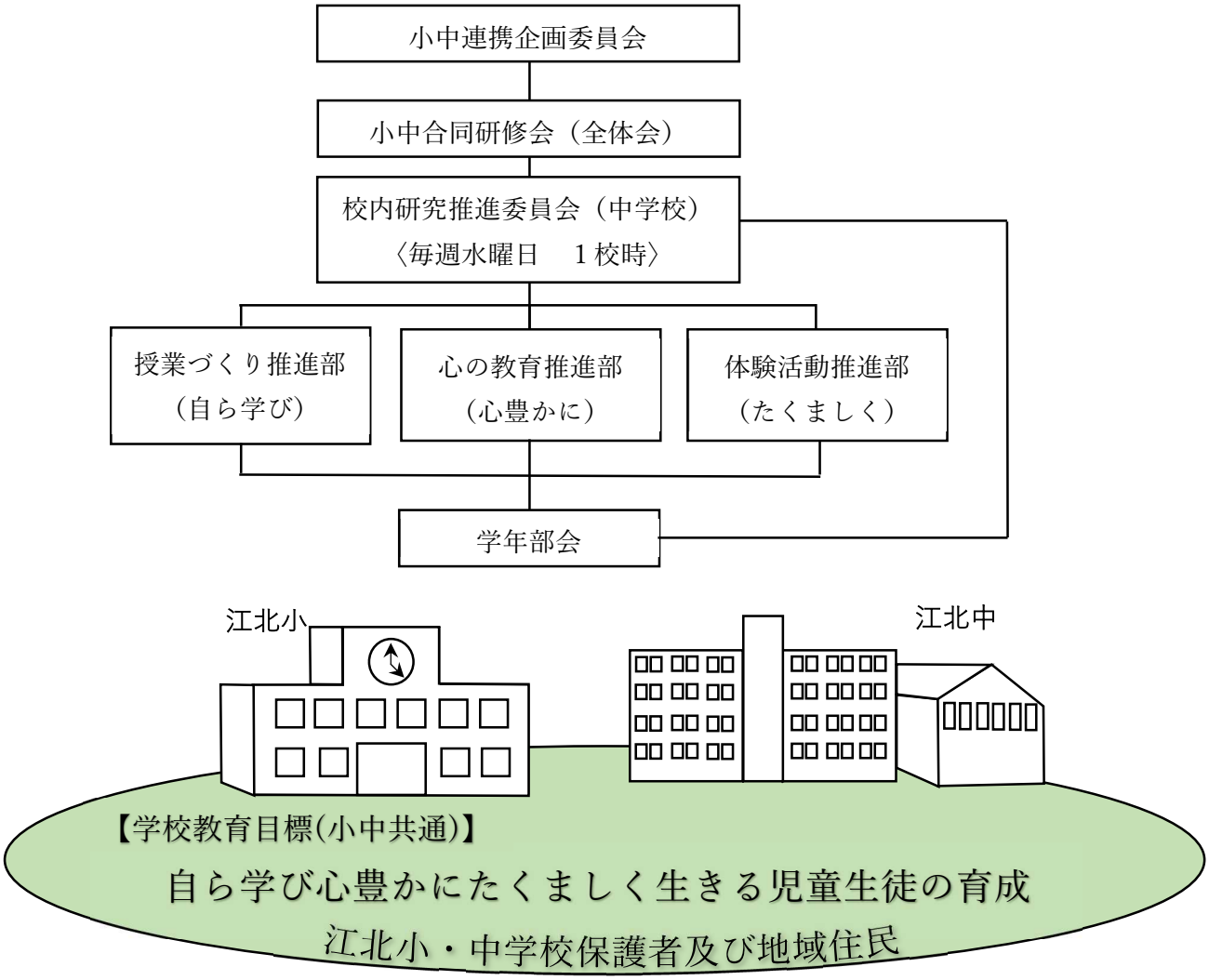
７　検証方法

- 道徳科の授業では、生徒の心情の変化や成長を見取るとともに、授業の振り返りを生徒に必ず記入させる。
- 道徳に関するアンケートを集計し、数値による分析を行う。

８　研究構想図


学校教育目標
自ら学び心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成
研究主題
心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育
～学校・地域とのつながりを通して～
児童生徒
授業づくりの推進
・小中連携した授業研究会の実施
・授業研究会の充実
・指導案の形式の提案
・「考え、議論する」手立ての工夫
・アンケートの実施と分析
・道徳通信の発行と道徳コーナーの設置
道徳の授業と体験活動の関連づけ
道徳科年間計画の見直し
児童生徒の共通体験の確保
心の教育の推進
・ハートタイムの実施・充実
・アンケートの実施と分析
・i-check の実施と分析、活用
・児童生徒の出番作り
体験活動の推進
・小中連携による交流活動の計画、実施
・各学校における行事や学習活動の充実
・環境整備
ふれあい道徳
道徳アンケート
行事・活動での交流
地域・家庭の願い

９　研究組織



本校では、今年度から水曜日の会議時間の短縮・合理化を進めている。その取組の１つとして、第２週を職員会議と生徒指導協議会、第４週を校内研究会、残りの第１・３・５週で学年部会を設定するようにした。学年部会の中で今後の道徳科の授業の打ち合わせを行い、時間の確保をするようにしている。

10　研修実施報告並びに年間研修計画

	校内研修	内　　容
4　月　2　日	第１回校内研究推進委員会	研究主題の変更 昨年度からの確認事項の整理 研究発表会までの計画の確認 研究協力者の確認　など
4　月　3　日	校内研究の方向性について(職員会議の中で)	研究主題の共通理解 今年度の計画の確認 研究組織の提案 三部会の内容確認
4　月　15　日	第２回校内研究推進委員会	第１回校内研究会での提案事項の確認
4　月　15　日	第１回校内研究会	研究概要の説明 年間指導計画の確認 三部会に分かれての協議
4　月　30　日	第１回小中研究推進委員会	研究主題の確認 今年度の計画の確認 三部会の取組の確認と紹介
休　校　期　間（　４/21～５/13　）		
5　月　21　日	第３回校内研究推進委員会	三部会より報告 学年別授業研究会の進め方について
5　月　21　日	第２回校内研究会 （学年別授業研究会）	２つの視点に関わる協議
5　月　27　日	第４回校内研究推進委員会	三部会より報告 学年別授業研究会の報告 理論研修会の提案
6　月　3　日	第５回校内研究推進委員会	三部会より報告 道徳通信についての協議 学年別授業研究会の提案
6　月　25　日	第３回校内研究会（理論研修会）	講師：武雄市立橘小学校 教諭　大宅　正樹
7　月　1　日	第６回校内研究推進委員会	三部会より報告 学年別授業研究会について 授業のローテーションについて
7　月　8　日	第７回校内研究推進委員会	三部会より報告 学年別授業研究会について
7　月　13　日	第４回校内研究会 （学年別授業研究会）	授業者 １年　T1:秋永　修一　T2:東島　彩 ２年　T1:井上　弘康　T2:森岡　伸彦 ３年　T1:櫟村　哲也　T2:井上三智子 講師 １年:西部教育事務所 指導主事　河村　　賢 ２年:佐賀県教育センター 研 修 員　高取須賀子 ３年:武雄市立橘小学校 教　　諭　大宅　正樹
7　月　15　日	第８回校内研究推進委員会	三部会より報告 学年別授業研究会の成果と課題
8　月　5　日	第５回校内研究会	心の教育推進部より報告 研究紀要の書き方について 三部会に分かれての協議

9　月　9　日	第９回校内研究推進委員会	９月 30 日の研究授業について 対話活動の取り入れ方
9　月　16　日	第 10 回校内研究推進委員会	11 月の研究発表会について
9　月　23　日	第 11 回校内研究推進委員会	研究紀要について 道徳アンケートの結果について
9　月　30　日	第６回校内研究会 （学年別授業研究会）	授業者 １年　T1:大屋友紀子　T2:田中　晋一 ２年　T1:内山　啓子　T2:森　　茂 講師 １年:西部教育事務所 指導主事　河村　　賢 ２年:佐賀県教育センター 研 修 員　高取須賀子
10　月　7　日	第 12 回校内研究推進委員会	研究紀要の進捗状況について 第４回校内研究会の反省
10　月　14　日	第 13 回校内研究推進委員会	研究紀要の締め切りについて
10　月　21　日	第 14 回校内研究推進委員会	第５回校内研究会（学年別授業研究会）について
10　月　28　日	第 15 回校内研究推進委員会	研究紀要の推敲および印刷計画
10　月　28　日	第７回校内研究会 （学年別授業研究会）	授業者 １年　T1:大屋友紀子　T2:田中　晋一 ２年　T1:内山　啓子　T2:森　　茂 ３年　T1:重松　健太　T2:井上三智子 講師 １年:西部教育事務所 指導主事　河村　　賢 ２年:佐賀県教育センター 研 修 員　高取須賀子 ３年:武雄市立橘小学校 教　　諭　大宅　正樹
11　月　4　日	第 16 回校内研究推進委員会	研究発表会の準備・打合せの確認
11　月　4　日	第８回校内研究会	研究発表会の準備・打合せ
11　月　9　日	道徳教育研究発表会	授業者 １年　T1:大屋友紀子　T2:田中　晋一 ２年　T1:内山　啓子　T2:森　　茂 ３年　T1:重松　健太　T2:井上三智子 講師 １年:西部教育事務所 指導主事　河村　　賢 ２年:佐賀県教育センター 研 修 員　高取須賀子 ３年:武雄市立橘小学校 教　　諭　大宅　正樹
以降、週１回の研究推進委員会 月１回の校内研究会を実施していく計画である。		

11　小中連携した道徳教育における学校経営の在り方

令和元年度から江北町コミュニティ・スクールを導入する計画で、平成 30 年度から準備が進められてきた。江北小・江北中学校共通の「江北町学校運営協議会」を設置し、地域とともにある学校づくりがどうあるべきか、江北町教育委員会が中心となって実施してきた。コミュニティ・スクールの導入、町内に１小１中の学校であることから、さらに小・中学校が連携、一貫した義務教育の充実を図る必要があるのではないかと両校長で協議した。そこで、令和元年度から学校教育目標及びめざす児童生徒像を共有化することにし、義務教育９年間で育成すべき知徳体バランスの取れた 15 歳の姿を教育目標に掲げた。それが、「自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成」である。昨年度、目標は共有化したものの具体的な取組実践まで進まなかった。

本年度は、発達段階に応じた目標を立て実践させようと考えた。さらに、本町には幼稚園・保育園が３つあり、幼児教育から意識して取り組ませたいという思いもあり、各園長に協力を依頼し、小中学校の「めざす児童生徒像」をもとに発達段階や各園・学校の経営方針と絡めながら「発達段階におけるめざす子どもの姿（到達目標でない）」を設定した。そうすることによって、江北町の教育関係機関が一丸となって、幼児期（０歳）から本町義務教育の教育目標を周知し実践してもらうことができると考え、本年度から取り組み始めたところである。

表１　江北町の各園・学校の発達段階におけるめざす子ども像

令和２年度　江北町幼保小中連携教育

江北町の各園・学校の発達段階におけるめざす子どもの姿

学校教育目標
「自ら学び心豊かに たくましく生きる児童生徒の育成」

		幼児教育センター	永林寺保育園	江北ひかり保育園	小学校前期	小学校後期	中学校
自ら学び	学びに向かう態度	身近な事象に積極的に関わり、友達と一緒に遊ぶ中で調べたり、試したり、工夫したりすることができる。	身近な環境に主体的に関わり、様々な遊びや活動を楽しんだり、味わったりすることができる。	自ら夢中になって主体的に取り組んだり、工夫したり、試行錯誤しながら挑戦して最後までやり遂げることができる。	知的好奇心をもって調べたり、難しいことに挑戦したりすることができる。	自ら課題を見付けて取り組んだり、理解するまで粘り強く努力したりすることができる。	**自ら課題を見付け、その解決に向けて、積極的に知識を活用したり、調べたりすることができる。**
	考える力の育成	遊びの中で、様々なことに気づき、繰り返し試したり、工夫したりすることができる。	身近にある不思議なこと、おもしろいことに出会い、好奇心を感じて探究することができる。 主体的に遊びや生活を送ることを通して、考えたり、工夫したり試行錯誤することができる。	周囲の環境に好奇心をもって積極的に関わることができる。	自分の思いや考えをもつことができる。	自ら考え、思いをわかりやすくまとめるたり、行動したりすることができる。	**自ら考え、多様な考えにも気づき、より良い考えを求めたり、その考えに基づき行動することができる。**
心豊かに	あいさつ	誰にでも気持ちのよいあいさつができる。	身近な大人や友達とのあいさつのやり取りを楽しむことができる。 朝と夕方に、本堂の前でほとけさまにごあいさつをすることができる。	あいさつや返事を元気な声ですることができる。	あいさつや返事を積極的にすることができる。	自分から先に元気な声であいさつや返事ができる。	**自ら時と場に応じた気持ちのよいあいさつや応対ができる。**
	優しい心	身近な動植物や自然に触れ、親しみ、愛情を持って関わることができる。	友達や異年齢児同士の関わりを通して、相手の気持ちに気づき、思いやりの心を持つことができる。 自然や生き物との関わりを通して命を大切にする心を育むことができる。	友達と仲良くできる。 おもちゃ等の取り合いも譲り合うことができる。	友達と仲良く接したり、協力したりすることができる。	相手の気持ちや立場を考え、誰とでも仲良く接したり、行動したりすることができる。	**互いの個性（よさや違い）を認め合う共感的な人間関係づくりができる。**
たくましく	たくましい心	苦手なことでもやってみようとする気持ちをもって取り組むことができる。	様々な活動を楽しむ中で、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、あきらめずに取り組もうとすることができる。	興味を示し、楽しく遊び込みができる。	いろいろなことにチャレンジし、あきらめずに粘り強くがんばることができる。	自分なりの目標をもって、あきらめずに粘り強く頑張ることができる。	**志や目標の実現に向けて、粘り強く取り組むことができる。**
	きまりを守る心	友達と関わる中で、きまりの大切さに気づき守ろうとすることができる。	友達と様々な体験を重ねる中で、きまりを理解したり、大切さに気づいたりしていくことができる。 自分の気持ちを調整し、きまりを作ったり、守ったりすることができる。	きまりや約束を守ることができる。	きまりをしっかり守ることができる。	きまりや約束、マナーをしっかり守ることができる。	**きまりや約束、マナーを大切にし、集団生活をよりよいものにしていくことができる。**

令和2年度　　道徳教育全体計画

江北町立江北中学校

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・県教育施策
・町教育施策

本校教育目標

自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成

めざす生徒像

・自ら学び考え行動する生徒
・他人を思いやる生徒
・粘り強く挑戦する生徒

道徳教育の目標

心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育

～学校・地域とのつながりを通して～

生徒の実態

・素直で明るい
・頼まれた仕事は責任をもってやり遂げる
・自発的な活動に乏しい
・望ましい人間関係を構築する力に弱さが見られる

家庭・地域の実態

・地域のつながりが強い
・他市町からの転入者も多い

保護者の願い

・責任をもって行動できる生徒
・思いやりの心をもって人と接する生徒
・誰に対しても公平に接することができる生徒
・生命を尊重することができる生徒

各教科における道徳教育

国語	言語活動を通して、正確に理解し適切に表現しようとする資質・能力を養う
社会	社会的事象の意義や意味を多面的・多角的に考察し、主体的に解決しようとする態度を養う
数学	数学的活動の楽しさやよさを実感し、生活や学習に生かそうとする態度を養う
理科	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う
音楽	音楽活動の体験を通して、音楽を愛好する心情や感性を育み豊かな情操を培う
美術	表現及び鑑賞の活動を通して、美術を愛好する心情や感性を育み豊かな情操を培う
保健体育	生涯にわたって心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現しようとする態度を養う
技術家庭	生活と技術についての理解を深め、生活をより工夫しようとする実践的な態度を養う
外国語	外国語の背景にある文化への理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う

道徳教育の重点目標

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てる【生命の尊さ】

各学年の重点目標

一年	望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し、自らを律し、自立できるよう努力する【自主、自律、自由と責任】
二年	相手の立場に立って、お互いのよさを認め、励まし合い、高め合うことのできる真の友情を育む【思いやり、感謝】
三年	社会連帯の自覚をもち、差別や偏見のない、よりよい社会の実現を目指す【公正、公平、社会主義】

特別活動における道徳教育

学級活動

・望ましい生活習慣の定着
・豊かな心と体の育成
・「なりたい自分像」を持たせるための計画的・体験的な進路指導の実践

生徒会活動

・自分を磨き、他を思いやる「ボランティア精神」を育成する
・「自主性」を伸ばすために、企画から運営を行い、教師はバックアップ体制を作る
・集団を大切にする気持ちを育て、生徒が自主的に取り組む姿勢を作る

学校行事

・集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に役立つような体験的活動を通して、自己存在の喜びを味わわせる

総合的な学習の時間における道徳教育

・職場体験や職業講話などの体験を通して、自己の生き方を考えることができる
・主体的に判断して学習活動を進め、粘り強く考え解決しようとする態度の育成

道徳科の指導方針

道徳科の授業づくりと体験活動を通して

【授業づくり推進部】
主体的な学びの視点と対話的な学びの視点を取り入れた指導の在り方や方法における研究を行う

【心の教育推進部】
出番作りや関係作りなどを通して、支持的風土の醸成を図りながら、自己有用感を高める研究を行う

【体験活動推進部】
体験活動を通して生徒の道徳性を育むとともに、授業で獲得した道徳的諸価値を活かし、自己有用感の向上につなげる

人権・平和教育における道徳教育

・動物をかわいがろうとする心を育てて、生命の大切さに気づかせる
・相手の立場になって考え、友達を大切にする心を育てる
・世の中の不合理に立ち向かう勇気の芽を育てる

その他の教育活動

・全校集会　・人権集会
・学年集会　・地区生徒会
・平和集会　・読み聞かせ

家庭との連携

・学校便り、学年便り、学級便り、道徳通信、食育便り、保健便りよりなどによって保護者との連携を深める
・親子レクや懇談会などを通して保護者との相互理解を深め、児童の個性伸長を図る

地域との連携

・幼児教育センターや小学校との連携
・地域の人材の発掘と授業での積極的な活用
・地域教材の作成と授業の公開
・コミュニティ・スクールの推進

生徒指導における道徳教育

・基本的な生活習慣を体得させるとともに、目標に向かって粘り強く実践する態度と相手を尊重する心情を育てる

令和２年度　道徳年間指導計画（１年）　　江北中学校

週	月	内容項目	主題名	教材名	学校行事・体験活動との関わり
1	4	A(1)	自主，自律，自由と責任	「拓哉のなやみ」オリエンテーション	・入学式
2		B(7)	礼儀	朝市の「おはようございます」	
3		A(2)	節度，節制	山に来る資格がない	
4	5	C(10)	遵法精神，公徳心	選手に選ばれて	・体育大会（延期）
5		B(9)	相互理解，寛容	いじめに当たるのはどれだろう	
6		C(14)	家族愛，家庭生活の充実	母はおしいれ	
7	6	D(19)	生命の尊さ	決断！骨髄バンク移植第一号	・ふれあい道徳（延期） ・期末テスト
8		D(19)	生命の尊さ	あなたはひかり	
9		D(22)	よりよく生きる喜び	花に寄せて	
10		C(18)	国際理解，国際貢献	日本から来たおばさん	
11	7	A(4)	希望と勇気，克己と強い意志	全てがリオでかみ合った	・中体連 ・二者面談
12		C(16)	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	ぼくのふるさと	
13	9	D(19)	生命の尊さ	いのちって何だろう	・絵手紙制作 ・体育大会 ・中間テスト
14		C(16)	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	郷土を彫る	
15		B(6)	思いやり，感謝	その人が本当に望んでいること	
16		C(10)	遵法精神，公徳心	ごみ箱をもっと増やして	
17	10	C(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実	全校一を目指して	・文化発表会（合唱コンクール）
18		C(11)	公正，公平，社会正義	席替え	
19		C(11)	公正，公平，社会正義	くじ引きの後の場面をやってみよう	
20		A(1)	自主，自律，自由と責任	ふたつの心	
21	11	A(5)	真理の探究，創造	「どうせ無理」という言葉に負けない	・期末テスト
22		C(12)	社会参画，公共の精神	本が泣いています	
23		A(1)	自主，自律，自由と責任	傍観者でいいのか	
24		D(22)	よりよく生きる喜び	銀色のシャープペンシル	
25	12	C(12)	社会参画，公共の精神	楽寿号に乗って	・生徒会長選挙 ・ふれあい道徳
26		C(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	古都の雅，菓子の心	
27	1	C(13)	勤労	「看護する」仕事	
28		C(13)	勤労	新しいプライド	
29		B(6)	思いやり，感謝	思いやりの日々	
30	2	B(8)	友情，信頼	短文投稿サイトに友達の悪口を書くと	・学年末テスト
31		B(8)	友情，信頼	班での出来事	
32		B(9)	相互理解，寛容	落語が教えてくれること	
33		A(3)	向上心，個性の伸長	自分の性格が大嫌い！	
34	3	D(21)	感動，畏敬の念	火の島	・卒業式 ・修了式
35		D(20)	自然愛護	桜に集う人の思い	

令和２年度　道徳年間指導計画（２年）　　江北中学校

週	月	内容項目	主題名	教材名	学校行事・体験活動との関わり
1	4	B(８)	友情，信頼	麻衣の苦悩(オリエンテーション)	・入学式
2		B(７)	礼儀	あいさつ	
3		A(２)	節度，節制	ぱなしの女王	
4	5	B(８)	友情，信頼	ゴール	・体育大会（延期）
5		C(12)	社会参画，公共の精神	住みよい社会に	
6		C(11)	公正，公平，社会正義	私のせいじゃない	
7	6	A(１)	自主，自律，自由と責任	あの子のランドセル	・ふれあい道徳（延期） ・期末テスト
8		A(１)	自主，自律，自由と責任	どんなことでも相談し合える仲間に	
9		A(４)	希望と勇気，克己と強い意志	左手でつかんだ音楽	
10		B(９)	相互理解，寛容	遠足で学んだこと	
11	7	A(３)	向上心，個性の伸長	私は十四歳	・中体連 ・二者面談
12		C(16)	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	祭りの夜	
13	9	C(11)	公正，公平，社会正義	招かれなかったお誕生会	・職場体験学習（中止） ・絵手紙制作 ・体育大会 ・中間テスト
14		C(10)	遵法精神，公徳心	許さない心	
15		C(10)	遵法精神，公徳心	宝塚方面行き-西宮北口駅	
16		C(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	心でいただく伝統の味	
17	10	B(９)	相互理解，寛容	なみだ	・文化発表会（合唱コンクール）
18		C(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実	四十七年に感謝をこめて	
19		C(13)	勤労	震災の中で	
20		C(13)	勤労	お弁当のことで文句を言われた場面をやってみよう	
21	11	C(18)	国際理解，国際貢献	六千人の命のビザ	・期末テスト
22		B(６)	思いやり，感謝	愛	
23		A(５)	真理の探究，創造	赤土の中の真実	
24		C(12)	社会参画，公共の精神	今度は私の番だ	
25	12	D(21)	感動，畏敬の念	夜は人間以外のものの時間	・生徒会長選挙 ・ふれあい道徳
26		D(22)	よりよく生きる喜び	本当の私	
27	1	C(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	大切なものは何？	
28		B(６)	思いやり，感謝	心に寄りそう	
29		D(19)	生命の尊さ	奇跡の一週間	
30	2	D(19)	生命の尊さ	妹に	・学年末テスト
31		B(８)	友情，信頼	みんなでとんだ！	
32		C(14)	家族愛，家庭生活の充実	ごめんね，おばあちゃん	
33		D(20)	自然愛護	冬の使者「マガン」	
34	3	A(２)	節度，節制	田老の生徒が伝えたもの	・卒業式 ・修了式
35		A(１)	自主，自律，自由と責任	金語楼さんのこと	

令和２年度　道徳年間指導計画（３年）　　江北中学校

週	月	内容項目	主題名	教材名	学校行事・体験活動との関わり
1	4	D(22)	よりよく生きる喜び	背番号15が歩んだ道―黒田博樹	・入学式
2		B(７)	礼儀	言葉おしみ	
3		C(13)	勤労	好きな仕事か安定かなやんでいる	
4	5	B(９)	相互理解，寛容	しあわせ	・体育大会（延期）
5		B(９)	相互理解，寛容	おたがいの「ちがい」を認め合おう	
6		A(２)	節度，節制	早朝ドリブル	
7	6	D(19)	生命の尊さ	あなたはすごい力で生まれてきた	・ふれあい道徳（延期） ・期末テスト
8		A(３)	向上心，個性の伸長	ぼくにもこんな「よいところ」がある	
9		A(１)	自主，自律，自由と責任	いじめから目をそむけない	
10		A(４)	希望と勇気，克己と強い意志	高く遠い夢	
11	7	C(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	花火と灯ろう流し	・中体連 ・三者面談
12		C(14)	家族愛，家庭生活の充実	背筋をのばして	
13	8	B(６)	思いやり，感謝	一冊の漫画雑誌	
14		D(21)	感動，畏敬の念	ハッチを開けて，知らない世界へ	
15		A(２)	節度，節制	スマホに夢中！	
16	9	D(19)	生命の尊さ	人間の命とは―人間の命の尊さ・大切さを考える	・修学旅行 ・絵手紙制作 ・体育大会 ・中間テスト
17		A(１)	自主，自律，自由と責任	ある日の午後から	
18		B(８)	友情，信頼	私を支えてくれた言葉	
19		B(６)	思いやり，感謝	埴生の宿	
20	10	C(16)	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	島唄の心を伝えたい	・文化発表会（合唱コンクール）
21		C(12)	社会参画，公共の精神	加山さんの願い	
22		C(12)	社会参画，公共の精神	社会からの無言の賞賛を感じる感性	
23		C(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実	受けつがれる思い	
24	11	C(11)	公正，公平，社会正義	無実の罪	・進路説明会 ・学年末テスト ・三者面談
25		C(10)	遵法精神，公徳心	缶コーヒー	
26		C(10)	遵法精神，公徳心	缶コーヒーをめぐるやりとりの場面をやってみよう	
27		D(20)	自然愛護	よみがえれ，日本海！	
28	12	C(11)	公正，公平，社会正義	伝えたいことがある	・生徒会長選挙 ・ふれあい道徳
29		D(19)	生命の尊さ	くちびるに歌をもて	
30	1	B(８)	友情，信頼	合格通知	・私立高校入試
31		D(22)	よりよく生きる喜び	足袋の季節	
32		C(18)	国際理解，国際貢献	その子の世界，私の世界	
33	2	C(18)	国際理解，国際貢献	そのこ	・県立高校入試 ・卒業式（３月）
34		A(５)	真理の探究，創造	湖の伝説	
35		C(13)	勤労	たんぽぽ作業所	

第1学年　道徳教育の全体計画（各教科との関連）

		国　語	月	社　会	月	数　学	月	理　科	月	音　楽	月	美　術	月	保健体育	月	技　術	月	家　庭	月	英　語	月	総合的な学習の時間	月	学校行事 （生徒会活動）	月	学級活動	月
A	主として自分自身に関すること																										
(1)	自主、自律、自由と責任	少年の日の思い出																									
(2)	節度、節制													体つくり運動	4			衣服のはたらき	5							夏休について 冬休みについて	7 12
(3)	向上心、個性の伸長																	自分らしく生きる	5	My Project 1 自分のことを話そう						将来の生き方と進路計画	
(4)	希望と勇気、克己と強い意志					計算の技能 操作活動	通年							陸上競技	5											中学校の学習	5 6
(5)	真理の探究、創造							観察・実験	通年			絵文字製作															
B	主として他の人とのかかわりに関すること																										
(6)	思いやり、感謝	グループ活動		室町文化とその広がり	2	グループ活動	通年			卒業式の歌	2	レタリング	5 6			・製作実習 （グループ活動）	5 6 9			ペア対話 グループ活動	通年			体育大会 文化発表会			
(7)	礼儀																										
(8)	友情、信頼					グループ活動	通年			合唱コンクール	9	友達を描く	7	心身の発達と心の成長	6	・製作実習 （グループ活動）				ペア対話 グループ活動	通年	グループ活動	通年	体育大会	5		
(9)	相互理解、寛容			世界各地の人々の生活と環境	5	グループ活動	通年	グループ活動	通年									家庭生活と地域		My Project 2 人を紹介しよう				体育大会 文化発表会	5 10		
C	主として集団や社会とのかかわりに関すること																										
(10)	遵法精神、公徳心													武道	11												
(11)	公正、公平、社会正義																										
(12)	社会参画、公共の精神															・バリアフリーデザイン ・ユニバーサルデザイン	5	家庭生活と地域		Program4 リサイクル活動						ボランティアから生まれる新しい自分	
(13)	勤労																									ボランティアから生まれる新しい自分	11
(14)	家族愛、家庭生活の充実																	家庭のはたらき	2	Program 11 FGRandma Baba and Her friends on a sleigh.				入学式	4	ボランティアから生まれる新しい自分	
(15)	よりよい学校生活、集団生活の充実					資料の活用	3			合唱コンクール 卒業式の歌	10 2			球技	1									体育大会 生徒総会	5 6	学級組織づくり	4 9 1
(16)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度																										
(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	古典		各時代の文化	通年	比例と反比例	11			箏曲「六段の調」 日本の民謡	12					・伝統をつなぐ宮大工の技 ・今も生きる先人の技術 ・日本の伝統技術 ・技術の歴史	5			Program 5.8 国際フードフェスティバル。 おりがみ Program 9 A new year's visit							
(18)	国際理解、国際貢献					図形	12 ～ 2			アジアの諸民族の音楽	10													平和学習	6		
D	主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること																										
(19)	生命の尊さ	大人になれなかった弟たちに・・・						植物の生活と種類	4 5					心身の発達と心の発達	7							環境	1				
(20)	自然愛護	幻の魚は生きていた						大地の変化	2 3	「浜辺の歌」 「赤とんぼ」	6	身近な風景を描く				・「生物育成」全体を通して	6 7			Program 7 The wonderful ocean		環境	1				
(21)	感動、畏敬の念							大地の変化	2 3																		
(22)	よりよく生きる喜び																										

第２学年　道徳教育の全体計画（各教科との関連）

		国　語	月	社　会	月	数　学	月	理　科	月	音　楽	月	美　術	月	保健体育	月	技　術	月	家　庭	月	英　語	月	総合的な学習の時間	月	学校行事 （生徒会活動）	月	学級活動	月
A	主として自分自身に関すること																										
(1)	自主、自律、自由と責任																										
(2)	節度、節制													体つくり運動	4			健康と食生活	10								
(3)	向上心、個性の伸長											平面構成 （デザイン）	10														
(4)	希望と勇気、克己と強い意志					計算の技能 図形の証明	通年							陸上競技	10			食生活を改善しよう	10	My Project 5 スピーチをしよう－こんな人になりたい	12			職場体験	9		
(5)	真理の探究、創造							観察・実験	通年											Program7 If you wish to see a change	12						
B	主として他の人とのかかわりに関すること																										
(6)	思いやり、感謝	グループ活動		さまざまな身分とくらし	6	グループ活動	通年			卒業式の歌	2					・製作実習 （グループ活動）	12 1			ペア対話 グループ活動	通年					思いやりから人間関係を作る	
(7)	礼儀															・情報モラルと知的財産	2					職場体験	7				
(8)	友情、信頼	走れメロス		さまざまな身分とくらし	6	グループ活動	通年			合唱コンクール	9	友人を描く	11			・製作実習 （グループ活動）				ペア対話 グループ活動	通年			体育大会	5	集団生活の向上を図るために 自分らしさ、友達らしさ	
(9)	相互理解、寛容					グループ活動	通年	グループ活動	通年			風景画の鑑賞	9							My project6 CMを作ろう こんなものがほしい	12	文化発表会	9 10	体育大会 文化発表会	5 10		
C	主として集団や社会とのかかわりに関すること																										
(10)	遵法精神、公徳心															・情報モラルと知的財産	2	消費者生活を守る	10			職場体験	7				
(11)	公正、公平、社会正義																							体育大会	5		
(12)	社会参画、公共の精神	小さな町のラジオ発																		Program6 A Work Experience Program	10	職場体験	7				
(13)	勤労																			Program6 A Work Experience Program	10	職場体験	7				
(14)	家族愛、家庭生活の充実	盆土産																		Program12 Her Dream Came True.	3			入学式	4		
(15)	よりよい学校生活、集団生活の充実					確率	3			合唱コンクール	9			健康と環境	5					Program6 A Work Experience Program	10			生徒総会	6		
(16)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度			身近な地域の調査	12					卒業式の歌	2	風景画製作						郷土料理	1								
(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	古典		世界から見た日本の姿 各時代の文化	5	連立方程式	6			歌舞伎「勧進帳」	12	木彫製作	5					地域の食文化	2	Program 4 Eigo Rakugo Program11 Yui-To Share to Live	7 2						
(18)	国際理解、国際貢献			世界から見た日本の姿	5					世界の諸民族の音楽	10									Progam 3 What Can We Do for Others?	6			平和学習	6		
D	主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること																										
(19)	生命の尊さ	字のない葉書						動物の生活と生物の進化	9 10					障害の防止	11			よりよい食生活をめざして	2	Program8 Friendshp across Time and Borders	1						
(20)	自然愛護			世界から見た日本の姿	5			気象のしくみと天気の変化	2 3	「荒城の月」 「夏の思い出」	10	ポスター制作 木彫制作	11 5							Program7 If you Wish to See a Change	12						
(21)	感動、畏敬の念																										
(22)	よりよく生きる喜び																										

第３学年　道徳教育の全体計画（各教科との関連）

		国　語	月	社　会	月	数　学	月	理　科	月	音　楽	月	美　術	月	保健体育	月	技　術	月	家　庭	月	英　語	月	総合的な学習の時間	月	学校行事 （生徒会活動）	月	学級活動	月
A	主として自分自身に関すること																										
(1)	自主、自律、自由と責任											自分をテーマにした平面表現															
(2)	節度、節制													体つくり運動	4			子どもの成長	6								
(3)	向上心、個性の伸長	「批評」の言葉をためる														・技術分野の学習を終えて	12			Program7 What is the most important thing to you?	10					進路学習	6
(4)	希望と勇気、克己と強い意志					反復練習	通年													My Project 7　有名人にインタビューしよう	12					将来を見通した進路を考えよう	
(5)	真理の探究、創造	論語						観察・実験	通年																		
B	主として他の人とのかかわりに関すること																										
(6)	思いやり、感謝	グループ活動	通年	変わりゆく家族	7	グループ活動	通年			卒業式の歌	2									ペア対話 グループ活動	通年			修学旅行	9		
(7)	礼儀																	幼児とのふれあい	7								
(8)	友情、信頼			平等権について考えよう	9	グループ活動	通年			合唱コンクール	10	友人を描く	10					幼児の発達	5	ペア対話 グループ活動	通年			体育大会	5	自分の個性、友だちの個性	
(9)	相互理解、寛容	握手		民主主義と私たち	9	グループ活動	通年	グループ活動	通年															体育大会 文化発表会	5 10		
C	主として集団や社会とのかかわりに関すること																										
(10)	遵法精神、公徳心	高瀬舟		よりよい社会をめざして	7															Program9 Education First:Malala's Story	1						
(11)	公正、公平、社会正義	作られた「言葉」を超えて		基本的人権と私たち	9															Program9 Education First:Malala's Story	1						
(12)	社会参画、公共の精神	誰かの代わりに		よりよい社会をめざして	7							新聞を使ったイメージ構成								Program9 Education First:Malala's Story	1					職業について考えよう	
(13)	勤労																									職業について考えよう	
(14)	家族愛、家庭生活の充実																	私の成長をたどる								職業について考えよう	
(15)	よりよい学校生活、集団生活の充実					標本調査	2		9	合唱コンクール	10			球技	6	・自分らしく生きるために ・人間とロボットの新しい関係をつくる	12							生徒総会	6		
(16)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度			私たちが地域社会でできること	7					卒業式の歌	2											地域に触れよう	9				
(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	古典		日本国憲法とは	10	平方根 三平方の定理	6 1			平調「越天楽」 「羽衣」	11									Progam6 Let's talk about Things Japanese.	9						
(18)	国際理解、国際貢献	エルサルバドルの少女　ヘスース		国際社会における日本の役割	2	平方根 三平方の定理	6 1	地球の明るい未来のために	1	世界の諸民族の音楽	10									Program4 Faithful Elephants	9						
D	主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること																										
(19)	生命の尊さ	挨拶		第二次世界大戦と日本	5			生命のつねがり	7	「花の街」	10			健康な生活と病気の予防	7			中学生になるまで	4	Program4 Faithful Elephants	7			修学旅行	9		
(20)	自然愛護							・自然界のつながり ・地球と宇宙	9 12	「花」	4	風景画制作	9							Program3 The 5Rs to save the earth	6						
(21)	感動、畏敬の念	月の起源を探る																									
(22)	よりよく生きる喜び	故郷																これからのわたしと家族		Program9 Education First:Malala's Story	1						

「授業づくり推進部」の取組

１　研究の目的

今年度の研究テーマである「心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育～学校・地域とのつながりを通して～」の実現のため、本部会では、「生徒一人一人が問題意識をもち、自分自身との関わりで考え、自らを振り返ることができるという主体的な学びの視点」と、「協働し対話し、多面的・多角的に考える対話的な学びの視点」を取り入れた指導の在り方や方法における研究を行う。

２　研究内容

(1)　道徳授業の指導法の工夫・改善

ア　全教師による道徳授業の実施

各学年でティーム・ティーチングによるリレー道徳を実施する。

（各学年の職員でＴ１とＴ２を分担し、担任は別学級でも授業を行う。）

イ　指導案形式とポイントの提案

指導案の形式を統一し、指導過程（見つめる、つかむ、広げる・深める、見つめ直す）での指導の重点を明確化する。

ウ　主体的に取り組むことができる対話活動にするための手立て

対話活動を充実させるために、活動を行う人数や形式、教具の活用方法について研究する。

（心のものさし・心情円・役割演技・ネームカードなどを用いた対話活動）

(2)　教材の整理

ア　各学年で実践した教材の保存・共有

全職員が授業づくりから授業実践まで積極的に携わることができるように、授業で使用したワークシート・スライドなどをファイリングや電子化をして、いつでも使用できるよう整理しておく。

イ　振り返りシート・道徳自己評価シートの活用

授業の振り返りや感想をワークシートとは別紙の振り返りシートに記入するようにし、各学期の自己評価や学年末の評価へとつなげる。

(3)　保護者に向けての道徳授業の計画

江北町フリー参観デーの日に、「命の尊さ」をテーマとした保護者対象の授業を行う。

（２年生教材：六千人の命のビザ）

(4)　研究授業の計画と授業研究会の実施

研究授業の視点を以下の２点とする。

○　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

○　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

3　研究の実際

(1)　道徳授業の指導法の工夫・改善

ア　全教師による道徳授業の実施

今年度も昨年度に引き続き、学年をチームとして道徳科の授業に取り組んできた。各学年でティーム・ティーチングによるリレー道徳を実施し、教材を共有することで各学年の実態や生徒の状況に応じて工夫した授業実践を行うことができた。その結果、全職員で道徳科の授業に取り組む体制ができあがり、教材研究においても個人の負担が軽減され、より工夫された授業を実践することができた。

さらには、教員間でも自然と道徳についての会話が増えてきた。互いに意見をやりとりすることで、それぞれの教師の授業実践力を高めることができた。

【道徳科の授業の進行表】

今後の道徳科の授業日程(案)

			予定	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2
4	6月3日	(　水　)		大屋　選手に選ばれて	岩永　いじめに当たるのはどれだろう	田中　朝市の「おはようございます」	A村山	C森岡	B井上	櫟村　手紙～拝啓十五の君へ～	重松　背番号15が歩んだ道
			授業者→	大屋・中島	岩永・秋永・東島	田中・村山	村山・田島	森岡・森	井上・内山	櫟村・井上	重松・戸坂
5	6月10日	(　水　)		秋永　山に来る資格がない	岩永　銀色のシャープペンシル	東島　母はおしいれ	ゴール			好きな仕事か安定かなやんでいる	
			授業者→	秋永・中島	岩永・村山	東島・大屋	田島・村山	森岡・井上	森・内山	大串・櫟村	木下・重松
6	6月17日	(　水　)		岩永　銀色のシャープペンシル	東島　母はおしいれ	秋永　山に来る資格がない	6千人の命のビザ			早朝ドリブル	
			授業者→	岩永・村山	大屋・東島	秋永・中島	村山・田島	実習生	内山・森	井上・木下	戸坂・大串
7	6月30日	(　火　)	新採研修			岩永　銀色のシャープペンシル					
						岩永・村山					
	7月1日	(　水　)		東島　母はおしいれ	秋永　山に来る資格がない		私のせいじゃない	あの子のランドセル	心で頂く伝統の味	湖の伝説	僕にもこんな「よいところ」がある
			授業者→	東島・大屋	秋永・中島		森・内山	田島・村山	井上・森岡	大串・戸坂	櫟村・井上
8	7月8日	(　水　)		村山　日本からきたおばさん	秋永　花によせて	大屋　全てがリオでかみ合った	心で頂く伝統の味	私のせいじゃない	あの子のランドセル	いじめから目をそむけない	足袋の季節
			授業者→	村山・岩永	秋永・東島	大屋・田中・中島	井上・森岡	森・内山	田島・村山	木下・大串	櫟村・井上
9	7月13日	(　月　)	第２回授業研	秋永　花によせて	大屋　全てがリオでかみ合った	村山　日本からきたおばさん	あの子のランドセル	心で頂く伝統の味	私のせいじゃない	足袋の季節	いじめから目をそむけない
			授業者→	秋永・東島	大屋・中島	村山	田島・村山	井上・森岡	森・内山	櫟村・井上	木下・戸坂

【教材作成者の割り当て表】

	【主題名】 教材名 内容項目	実施日	作成者
4月(2時間)	道徳オリエンテーション 道徳アンケート		戸坂
4月(2時間)	手紙～拝啓十五の君へ～		重松
5月(3時間)	【信念をつらぬいて生きる】 1　背番号15が歩んだ道―黒田博樹		重松
5月(3時間)	【言葉にそえて】 2　言葉おしみ		櫟村
5月(3時間)	【将来の自分を見つめて】 16　好きな仕事か安定かなやんでいる		木下

	【主題名】 教材名 内容項目	実施日	作成者
6月(4時間)	【いのちを考える(2)】 人間の命とは―人間の命の尊さ･大切		重松 戸坂
6月(4時間)	【日々を見つめて】 8　早朝ドリブル		井上
6月(4時間)	【強く生きていくために】 28　湖の伝説		大串
6月(4時間)	【見方を変えれば】 6　ぼくにもこんな「よいところ」がある		櫟村
7月(2時間)	【いじめのない世界へ(2)】 いじめから目をそむけない		木下

イ　指導案形式とポイントの提案

第 □ 学 年 □ 組 道 徳 科　学 習 指 導 案

生徒数　□□名

指導者　Ｔ１　教諭　□□　□□

Ｔ２　教諭　□□　□□

１　主題名　□□□□　　【 □ ―（□）□□□□ 】

２　教材名　「 □□□□ 」　（　新しい道徳□　東京書籍　）

３　主題の設定理由

○ねらいとする価値について

授業で扱う道徳的価値(内容項目)について記述する。
① 学習指導要領(特別の教科　道徳)
② 新しい道徳　指導書　　などを参照

○生徒の実態について

生徒や学級の実態について記述する。
① 道徳アンケート
② 学級満足度テスト（i-check）
③ 道徳的価値に関するアンケート
などの結果を分析し、記入する。
（アンケートなどの結果については数値を使って表す。）

○教材について

教材の内容に触れ、指導者が扱おうとしている道徳的価値に関する部分について記述する。

※本時で教材をどのように活用するのかを書く。

○指導について

導入部分では、□□□□

展開部分では、□□□□

終末部分では、□□□□

ここでは、本時の留意点（１時間を通しての手立てや指導の工夫）について記述する。このときに、１時間の流れを「導入部分」、「展開部分」、「終末部分」の３部に分けて、それぞれの手立てについて記入するようにする。

・教材提示　・発問　・対話活動　・板書
・書く活動　・終末　などの指導者の手立てなどを記入する。

4　本時のねらい

□□□□…

5　ねらいに迫るための指導の重点

① 発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。
② 対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

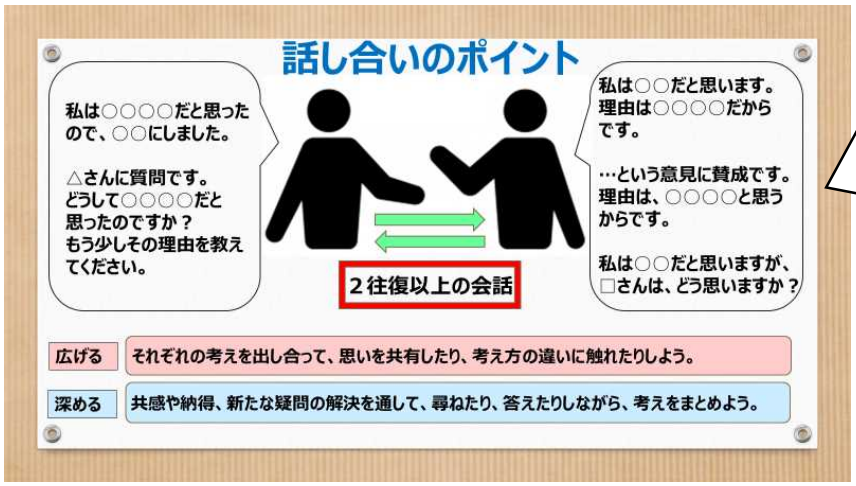
今年度の授業研究会の２つの柱
※共通項目

6　展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・) 中心発問(◎)	教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見つめる	1　▽▽▽▽	**「見つめる」⇒ ねらいとする道徳的価値へ方向付ける** ○生徒に問題意識をもたせる工夫 ・アンケート結果の紹介や学級の実態 ・新聞記事やイラスト、動画などを活用	○興味や関心を喚起できるように写真やアンケート結果、実物の提示などを利用する。 ○何について考えればよいのかという視点を与える。
つかむ	2　□□□□	**「つかむ」⇒ 教材を通してねらいとする道徳的価値を追求・把握する** ○教材に対しての興味付けについて ・教材へのアプローチを工夫 ○内容やその背景、専門的な用語などを説明 ・イラストや写真などを使って、教材の中で起きた出来事やポイントとなる場面をおさえる ・教材をもとに、主人公等の思いや考えに触れる	○教材を読んだり友だちの意見を聞いたりする中で、教材の中の人物を自分に重ね合わせ、自分自身のこととして考える。 ○生活とかけ離れた時代背景や生活等については、ビデオや写真などの視覚的教材の活用や実物提示をする。
広げる・深める	3　△△△△ **生徒の活動** 【書く活動】 一人で考え、ワークシートに記入する。 【対話活動】 対話活動の流れについて記入する。	**「広げる」「深める」⇒ 他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考え、自分の考えを深める** ○対話活動の工夫 ・座席の工夫　・意図的指名や討論形式の工夫 ・グループによる対話活動 (ペア、班、同じ意見・異なる意見どうしの対話) ・問題解決を話し合う ・役割演技を通して、解決策を検討する ・これまでとこれからの生活を比較し、自分自身に問う ○自分の考えを視覚的に示す工夫 ・ネームカードや心情円などの活用 ・ホワイトボードの活用や付箋を用いたウェビング ○書く活動の工夫 ・場面絵や吹き出し等を活用したワークシートの工夫	○自分の考えを書く時間を十分に確保する。書くことで自分の考えを整理し、深めさせ、対話活動において、言葉にしやすくする。 ○意見をまとめるのではなく、多様な考えがあることに気づかせる。同種の考えも理由には(大小の)違いがある。 ○対話活動では２往復以上の会話を目標とする。 【話し合いのポイント】の活用
見つめ直す	4　◇◇◇◇	**「見つめ直す」⇒ 自分の生活を振り返り、自分の価値観に気づき、高める** ○教師の説話 ○作文や手紙、格言やことわざなどの読み聞かせ ○音楽や動画の活用 ○授業を通して気づいたこと（生徒の発言や好ましい態度など）を伝える ○主人公への手紙	○これからの自分の生き方や生活に関わる課題について意識し、自身への問いかけをもてるようにする。 授業を通して、期待される生徒の姿について記入する。

ウ　主体的に取り組むことができる対話活動にするための手立て

これまで授業研究会の協議内容の中に「対話活動が主体的に活動できるものだったか」を取り上げ、研究を進めてきた。積極的に対話活動に取り組み、意見を広げることができるようになってきたが、互いの意見を発表するだけの対話活動で終わることが多く、意見を深めることがあまりできなかったという反省点が挙げられた。そこで今年度から「話し合いのポイント」を作成し、全教科の授業でも活用できるようにし、意見を深める一助とした。

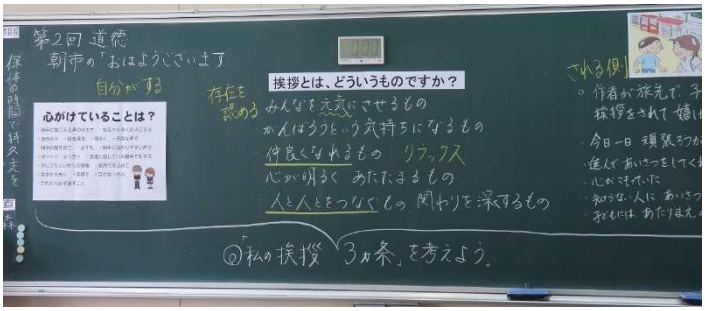


対話活動では２往復以上の会話を目標とし、発表した意見に対して、その後の対話が続くような問いかけの例を表した。また、データと掲示用を準備し、全教科の授業でも活用できるようにした。（**資料１**）

資料１　話し合いのポイント

心情円を活用して、「スマホで写真を撮るか、撮らないか」を自分の心を表した。意見の違う生徒どうしで意見の交換を行った。（**資料２**）

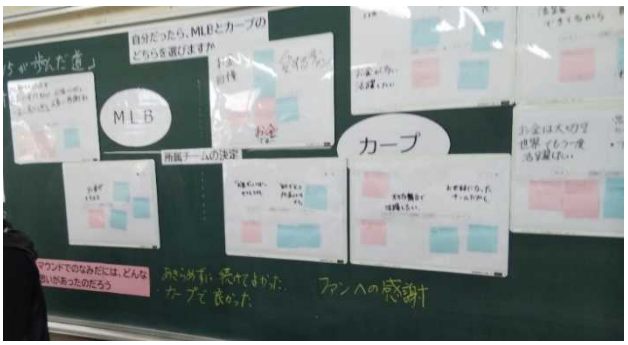
資料２　心情円を使った対話活動



資料３　あいさつで心がけることを確認した後の役割演技

対話活動後、色の違うカードを貼って気持ちの変化を表した。（**資料４**）

資料４　ネームカードを使った心のものさし



資料５　ホワイトボードを使った話し合い活動

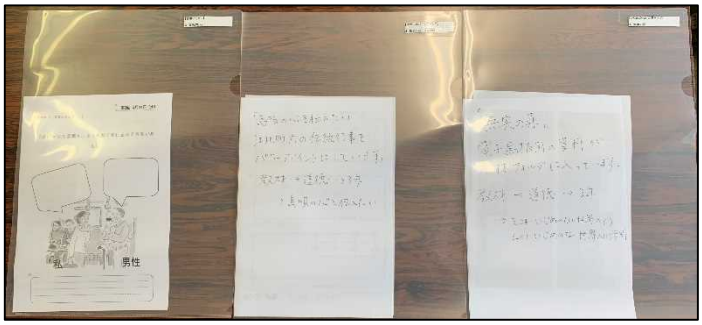
(2)　教材の整理

ア　各学年で実践した教材の保存・共有

全職員が道徳授業を実践できるように学年ごとに、データや資料を整理した。

①4.17　オリエンテーション	2020/05/15 15:16
②4.24　あいさつ	2020/05/07 13:30
③.⑤ばなしの女王	2020/06/04 7:57
③7.1　いじめのない世界へ	2020/07/08 10:40
④5.27　あの子のランドセル	2020/09/08 13:14
⑤6.1　ライフボート	2020/05/07 8:45
⑥6.5　ゴール	2020/06/09 17:18
⑦6.12　二通の手紙	2020/05/07 8:45
⑧6.26　遠足で学んだこと	2020/08/26 10:48
⑨7.2　左手でつかんだ音楽	2020/08/26 11:04
⑩7.10　私は14才	2020/07/30 10:49

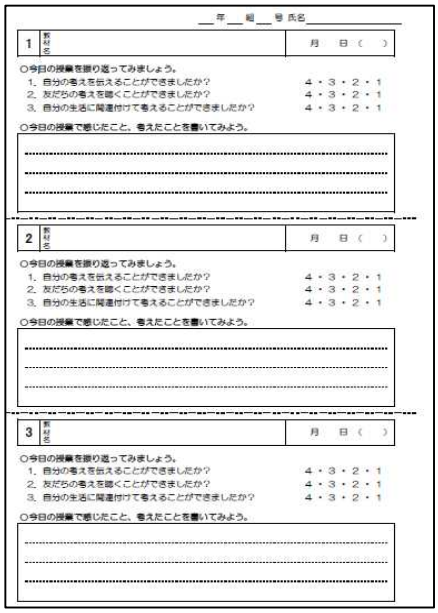
資料１　授業で使用したデータ



資料２　各学年の道徳教材ファイル

イ　振り返りシート・道徳自己評価シートの活用

授業の振り返りをワークシートとは別の振り返りシートに「考えを伝えることができたか」、「考えを聴くことができたか」、「生活と関連付けて考えることができたか」の３つの視点で記入するようにし、各学期の道徳自己評価シートとともに学年末の評価の参考資料にした。



＿年＿組＿号 氏名＿＿＿＿＿＿

1　教材名　　月　日（　）

○今日の授業を振り返ってみましょう。
1. 自分の考えを伝えることができましたか？　4・3・2・1
2. 友だちの考えを聴くことができましたか？　4・3・2・1
3. 自分の生活に関連付けて考えることができましたか？　4・3・2・1

○今日の授業で感じたこと、考えたことを書いてみよう。

2　教材名　　月　日（　）

○今日の授業を振り返ってみましょう。
1. 自分の考えを伝えることができましたか？　4・3・2・1
2. 友だちの考えを聴くことができましたか？　4・3・2・1
3. 自分の生活に関連付けて考えることができましたか？　4・3・2・1

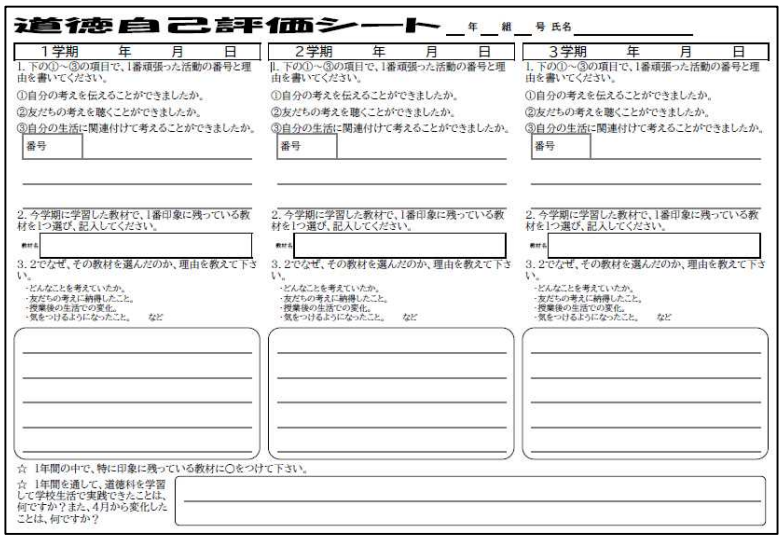
○今日の授業で感じたこと、考えたことを書いてみよう。

3　教材名　　月　日（　）

○今日の授業を振り返ってみましょう。
1. 自分の考えを伝えることができましたか？　4・3・2・1
2. 友だちの考えを聴くことができましたか？　4・3・2・1
3. 自分の生活に関連付けて考えることができましたか？　4・3・2・1

○今日の授業で感じたこと、考えたことを書いてみよう。

資料３　振り返りシート



道徳自己評価シート　＿年＿組＿号 氏名＿＿＿＿＿＿

1学期　年　月　日	2学期　年　月　日	3学期　年　月　日
I. 下の①～③の項目で、1番頑張った活動の番号と理由を書いてください。 ①自分の考えを伝えることができましたか。 ②友だちの考えを聴くことができましたか。 ③自分の生活に関連付けて考えることができましたか。 番号	II. 下の①～③の項目で、1番頑張った活動の番号と理由を書いてください。 ①自分の考えを伝えることができましたか。 ②友だちの考えを聴くことができましたか。 ③自分の生活に関連付けて考えることができましたか。 番号	I. 下の①～③の項目で、1番頑張った活動の番号と理由を書いてください。 ①自分の考えを伝えることができましたか。 ②友だちの考えを聴くことができましたか。 ③自分の生活に関連付けて考えることができましたか。 番号
2. 今学期に学習した教材で、1番印象に残っている教材を1つ選び、記入してください。 教材名	2. 今学期に学習した教材で、1番印象に残っている教材を1つ選び、記入してください。 教材名	2. 今学期に学習した教材で、1番印象に残っている教材を1つ選び、記入してください。 教材名
3. 2でなぜ、その教材を選んだのか、理由を教えて下さい。 ・どんなことを考えていたか。 ・友だちの考えに納得したこと。 ・授業後の生活での変化。 ・気をつけるようになったこと。　など	3. 2でなぜ、その教材を選んだのか、理由を教えて下さい。 ・どんなことを考えていたか。 ・友だちの考えに納得したこと。 ・授業後の生活での変化。 ・気をつけるようになったこと。　など	3. 2でなぜ、その教材を選んだのか、理由を教えて下さい。 ・どんなことを考えていたか。 ・友だちの考えに納得したこと。 ・授業後の生活での変化。 ・気をつけるようになったこと。　など

☆　1年間の中で、特に印象に残っている教材に○をつけて下さい。

☆　1年間を通して、道徳科を学習して学校生活で実践できたことは、何ですか？また、4月から変化したことは、何ですか？

資料４　道徳自己評価シート

(3)　保護者に向けての道徳授業の計画

実施計画日	主題名・教材名
6月13日（土）	主題名「かけがえのない生命の尊重」【D－（19）生命の尊重】 教材名「六千人の命のビザ」　新しい道徳２（東京書籍）

【実施計画】

今年度、江北町フリー参観デーを６月 13 日（土）に実施する予定にしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。昨年度の保護者への道徳教育アンケートで「地域の子どもたちに身につけてほしい態度」として小中ともに「生命の尊さ」の項目が最も多かった。そのため計画では、上記の主題名・教材名で保護者向けの授業を行う予定にしていた。

保護者向けの授業が中止となったために、第２学年の生徒に向けて授業を行った。道徳通信を発行し、家庭内で「生命の尊さ」について話し合い、保護者に感想を書いて頂いた。

【保護者の感想】

6月号

◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

この人たちを助けたい　そう思ったとしても　実際に
行動にうつすことは　ゆうきがいります。
自分のすなおな気持ちに向きあい行動にうつすことで
後かいのない人生をおくれたと思います

6月号

◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

「六千人の命のビザ」…昔、この様な事があっていたのを初めて知りました。家族を犠牲にするかもしれない。と言うか、自分だったら…と考えると、とても凄く正直、杉原さんの様には出来ないわ…と[illegible]スゴイ方だわ…と妻と話をしました。まだまだ、長い人生、人の気持ち、相手の気持ちをしっかり考えて、行動できるよう[illegible]心やさしい女性になってほしいと思います。

6月号

◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

こうした、偉人の方々の行ないを心にとどめて、今自分の目の前の人へ、小さなことから、行動を起こす勇気にしてほしいと思います。人の役に立つことの喜びを感じられる人間になってほしいものです。

6月号

◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

人間として当たり前に難民たちの命を助けたいという思いはこみ上げてくると思うが、実際に自分の人生（命）を賭けてまで実行はできなかったと思う。

(4)　研究授業の計画と授業研究会の実施

研究授業（１年生）　　第 1 学 年 1 組 道 徳 科　学 習 指 導 案

生徒数　□□名

指導者　Ｔ１　□□　□□

Ｔ２　□□　□□

１　主題名　生きることのすばらしさを感じて　　【 Ｄ ―(22) よりよく生きる喜び 】

２　教材名　「 花に寄せて 」　（　新しい道徳１　東京書籍　）

３　主題の設定理由

○ねらいとする価値について

人間としてよりよく生きるには、目標や希望を持つことが大切である。日常生活の中のほんの小さな目標であっても、それが達成されたときには満足感を覚える。このような達成感は、自己の可能性を伸ばし、次のさらに高い目標に向かって努力する意欲を引き起こすことにもなる。このことを積み重ねながら、人生の理想や目的を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望も育まれてくる。かけがえのない命の尊さを自覚し、人間として一生懸命に生きようとする意欲を高めたい。

○生徒の実態について

学級全体としては、素直で何事にも積極的に取り組む生徒が多い。道徳の時間では、積極的に挙手して発言をする生徒は多く、他の人の考えを真剣に聞き、自分の考えと照らし合わせながら自分の考えを深めようとする姿勢が見られる。

今年度６月に生徒に「将来の進路や目標」に関することについて尋ねた際には、未定の生徒が多く見られた。

そこで、本資料を通して、星野富弘さんの生き方から学び、「命の大切さ」や「人間としての誇りをもって、一生懸命に生きることの意義」を生徒に考えさせ、一日一日を懸命に生きることの尊さを考えさせていきたい。

○教材について

本資料は、重い障がいにも屈することなく、詩や絵画の創作に取り組んでいる星野富弘さんの著書からの抜粋である。中学の体育教師として希望にあふれて赴任した星野さんが、クラブ活動の鉄棒の演技指導でのケガで、肩から下の自由を失ってしまう。そして、長い闘病生活の後、口に筆をくわえて絵を描くことに生きる喜びを見いだし、展覧会を開いた場面を中心に構成されている。生きることに消極的だった星野さんが、口で絵を描くことを通して生きる喜びを見いだし、多くの人々の愛に支えられながら、強く美しく生き抜いていこうとする姿が描かれている。この資料を通して、極めて重い障がいに負けることなく、生命のあるかぎり強く生き続けようとする姿を見つめさせ、一生懸命に生きることのすばらしさを感じさせることのできる教材である。

○指導について

資料をじっくり読ませ、主人公の生き方を理解することで、生命尊重の自覚を深めさせたい。重い障がいに負けず、絶望の淵からはい上がって一生懸命に生きようとする作者の姿から学ぶことがこの資料を扱うねらいである。本時では、作者が描いた絵を展覧会に出展してからの心境と、展覧会を見た人たちの評判を聞いてからの心境の変化を考えさせていきたい。その中で、本時のねらいとする価値に迫っていきたい。その上で「語りかけ帳」から星野さんの生き方に感じたことを発表させ、生命の尊さを自覚し、一生懸命に力強く生きていこうとする意欲につなげていきたい。

4　本時のねらい

絶望からはい上がって絵を描き続ける主人公の生き方に共感し、困難や障がいを乗り越え、人間としての誇りを持って、よりよく生きていこうとする態度を育てる。

5　ねらいに迫るための指導の重点

①　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

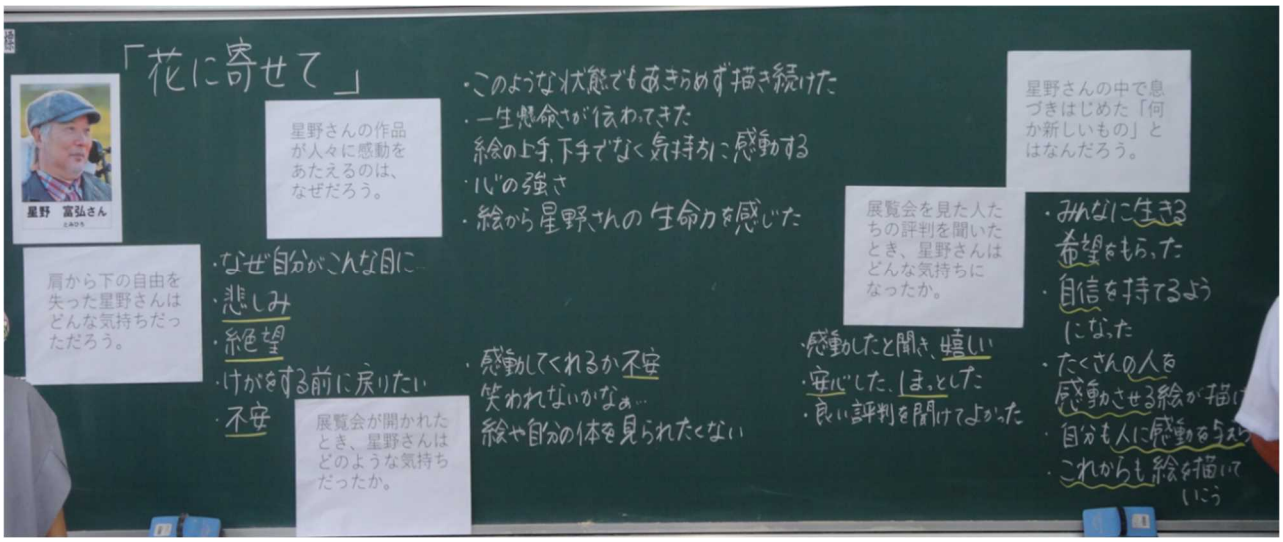
②　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

6　展開

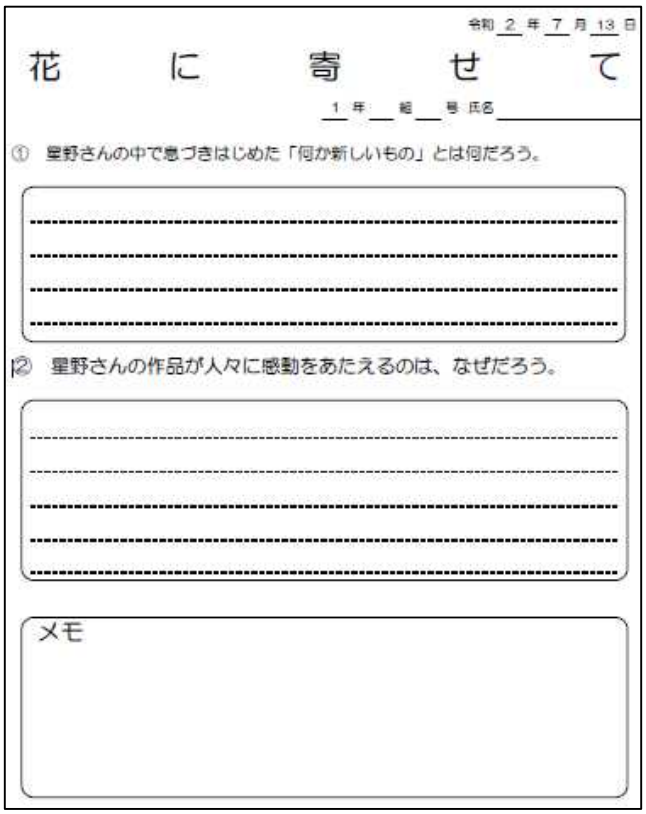
過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・) 中心発問(◎)	教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見つめる つかむ 広げる・深める	1　星野さんの生い立ちや境遇について知る。		
	2　資料の星野さんがけがをした場面を読み、話し合う。	○肩から下の自由を失った星野さんはどんな気持ちだっただろう。 ・絶望した ・悲しい ・なぜ、こんな姿になったのだろう	・絶望の淵に追いやられた状況に共感させる。
	3　星野さんの絵の展覧会が開かれた場面を読み、話し合う。 ・資料 P１３３の５行目まで読む。	○展覧会が開かれたとき、星野さんはどのような気持ちだったか。 ・恥ずかしい ・自分の絵を見られたくない ・不安 ・自分の絵を批判されそう	・絵の価値が分からず、「体を消してしましたい」と思っている複雑な心情を理解させる。
		○展覧会を見た人たちの評判を聞いたとき、星野さんはどんな気持ちになったか。 ・絵の評判にびっくりした ・みんなが感動してくれるなんて、信じられない ・うれしい	・喜びを感じ、絵を描くことの意義に気付かせる。
	（ワークシートに記入）	○星野さんの中で息づきはじめた「何か新しいもの」とはなんだろうか。 ・生きることに希望を見いだした ・障がいを乗り越えて生きようとした ・絵を描くことが生きる喜び ・自分を表現できる可能性があった	・質問が理解しづらい時は、平易な言葉で言い換える。

見つめ直す	４　「語りかけ帳」を読み、星野さんの生き方から感じたことを発表する。 ・資料を最後まで読む。（ワークシートに記入） 【交流活動】 ペア→全体 ５　感想や交流活動を通して考えたこと、感じたことを振り返りシートにまとめる。	◎星野さんの作品が人々に感動をあたえるのは、なぜだろう。 ・自分が持てる限りの力で一生懸命成し遂げようとしているから ・人間というもの、生命というものの、限りない可能性を感じさせるから ○自分が考えたことや感じたことを、振り返りシートに書こう。	・意見をお互いに出し、意見を交換させる。（Ｔ１とＴ２で机間指導） ・意見を出た後、自分の生活を見つめ直す言葉かけを行い、一生懸命生きることについて考えを深めさせる。（Ｔ１とＴ２で役割分担） 人々に感動を与え続ける主人公の姿に共感し、よりよく生きることについて、自分のこととして捉え、深く考える。

7　実際の板書



8　ワークシート



令和 2 年 7 月 13 日

花　に　寄　せ　て

1 年 ＿ 組 ＿ 号 氏名 ＿＿＿＿＿＿

① 星野さんの中で息づきはじめた「何か新しいもの」とは何だろう。

② 星野さんの作品が人々に感動をあたえるのは、なぜだろう。

メモ

９　考察

今年度の授業づくり推進部の視点は、

①　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

②　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

以上の２点を協議の柱として授業研究を行うこととしている。そのため研究協議では、この視点に絞って付箋紙を利用しながら意見交流会を行った。以下、本時の授業に対する意見や感想である。

①について

○　板書からも星野富弘さんの心の動きを構造的に書かれていたので、主題に迫っていた。障がい者となり、歩くこともできない不自由な体になり、絶望するところから葛藤し、障がいを受け入れるところを細かく順を追って丁寧に説明することで、発問につながっていた。

◆　生徒たちは星野さんをよく知らなかったので、星野さんについての理解を深めるともっと良かった。障がいについても完治すると思っている生徒もいたので、もう少し説明をしても良いとの意見もあがった。星野さんをより深く捉えるために、導入の部分で絵と詩を見せて、興味をひくようにしても面白いのではないかと話に上がった。

◆　発問の言葉が難しく、言葉を変えて生徒が理解しやすい言葉で発問した方が良いのではないかと話題になった。映像を用いることで、イメージがつきやすくなると考えられる。

②について

○　対話活動の手立てとして、板書が考えるきっかけになっていた。そのため、単語や耳に残ったフレーズをＴ２が板書し、生徒のメモになっていた。生徒自身も友だちの意見をメモすれば板書だけに頼らなくて済むという意見もあった。書く活動では、次に行われる意見交換に備えて個々がワークシートに自身の考えを書くことができていた（**資料１**）

◆　対話活動として、ペアでの意見交換となった。２人だと物足りないという意見が出て、次々に指名し、意見をシェアしても良いのではないかと話にあがった。新型コロナウイルス感染症拡大以前は、グループ活動や旅行学習など色々な対話活動の手段があったが、今は対話活動が取り入れにくい状況にある。（**資料２**）

◆　対話力を身につけるために、教師が生徒の意見に対してさらに問い返しを行うと良いのではないかという意見があがった。

資料１
書く活動

資料２
ペアで意見交換する様子

資料３
発言する様子

10　指導助言より

(1)　Ｔ１、Ｔ２の役割を理解し、分担がきちんとされていた。教師は生徒のつぶやきからひろってつないでいき、コーディネータに徹していく。問いの切り返しを行うことで、もっと幅の広い意見や話が深いところにまで及ぶため、切り返しを行うことが大事である。板書に関してもわかりやすく書かれていた。

(2)　生徒の気持ちが変わっていく様子をとらえられるようにワークシートを工夫した方がよい。考えが浮かばない生徒の心の変容が分かるような具体的な方法を提示されていた。

研究授業（２年生）　　第 2 学 年 2 組 道 徳 科　学 習 指 導 案

生徒数　□□名

指導者　Ｔ１　□□　□□

Ｔ２　□□　□□

１　主題名　郷土の魅力にふれて　　【 Ｃ ― (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 】

２　教材名　「 祭りの夜 」　（　新しい道徳２　東京書籍　）

３　主題の設定理由

○ねらいとする価値について

近年、わが国の都市化および過疎化はますます進んできている。一般的に地域の人々との触れ合いや協力の機会は減少している状況にあり、若者の郷土に対する意識も大きく変化し、郷土への愛着の意識が薄れてきている。そこで、地域行事への参加を促したり、郷土の伝統や文化に触れる機会を設けたりすることで、生徒に地域社会の一員としての自覚を呼び起こし、郷土を愛し社会に尽くそうとする心情を育てたい。さらに郷土を作り上げた先人の努力の上に現在の生活があることに気づき、尊敬や感謝の気持ちを深めることによって、自分にできることは何かを考え、郷土のために寄与しようという意識を高められるようにしたい。

○生徒の実態について

中学生の時期は、自我の確立を意識しやすい時期でもあり、自分が自分だけで存在していると考えがちである。また、地域の人々との触れ合いや協力の機会は減少している状況にあり、自分が家族や地域社会に支えられ、さらに郷土を作り上げた先人の努力の上に現在の生活があることに気づきにくい。本学級の生徒でも i-check の標準スコアによる偏差値で 51.6 となっており、地域の人と深くかかわって育ってきた生徒は限られているのが現状である。その限られた生徒の意見を、全体で共有させることで、地域の一員として郷土の発展のためにできることを考えさせる意義は大きいと思う。

○教材について

本時の教材は、秋田の中学生による作文である。母といっしょに出かけた夏祭りの会場で、歩道で入場を待っている時に、関西からの観光客に話しかけられる。勇壮な祭りに感激し、さらに秋田について知りたいという思いから質問を重ねる観光客に、作者は一生懸命説明しようとする。これらのやり取りの中で、作者が改めて地域のよさを認識し、地域社会の一員として主体的に郷土に向き合っていこうとする気持ちがつづられている。祭りに留まらず、名所や名産を紹介していく中で、郷土のすばらしさを再認識するものにはどのようなものがあるかを考えるきっかけともなる。今回の経験を振り返る中で、まだまだ知らないことがたくさんあることに気づき、郷土に主体的に関わろうとする思いにつなげ、郷土に対する思いを深めることができる。また、同年代の作文ということで、生徒たちが作者の体験に自らを重ねて考えることのできる教材である。

○指導について

導入部分では、郷土やふるさとについてのイメージを生徒に発表させ、黒板に提示する。作者の郷土である秋田県の竿灯まつりについては知らない生徒も多くいると予想できるため、内容を正しく理解できるようにするために、動画や画像等を用いて補足をする。これにより、自分のこととして考えていこうとする意識をもたせたい。

展開部分では、生徒の心情や気持ちの変化を読み取れる部分があるので、ワークシートや黒板を活用して、簡潔にまとめるようにしたい。教材のポイントを押さえるために、「関西の人と話をしていて、作者が気付いたことはどんなことなのか」「私にとって忘れられない、すばらしい出会いとなったと感じた理由」、この２つを「主題をつかむための発問」として設定し、ワークシートに書かせるなどの時間をとりたい。主題を、「地域社会の一員としての自覚をもち、郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする気持ちや態度を育む」とし、これたどり着くための中心的な発問として「郷土のために、自分ができることはどのようなことだろう」を設定する。生徒が住んでいる江北町の伝統や文化、自然について想起させることにより、自分ができることを具体的に記述できるようにしたい。

終末部分では、自分の郷土が江北町や佐賀県であることを確認し、郷土を大事に思う気持ちをもち続けてほしいことを伝える。これらの活動を通して、郷土を愛する気持ちを確認させ、郷土を愛する態度を育てたい。

4　本時のねらい

地域社会の一員としての自覚をもち、郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする気持ちや態度を育む。

5　ねらいに迫るための指導の重点

①　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

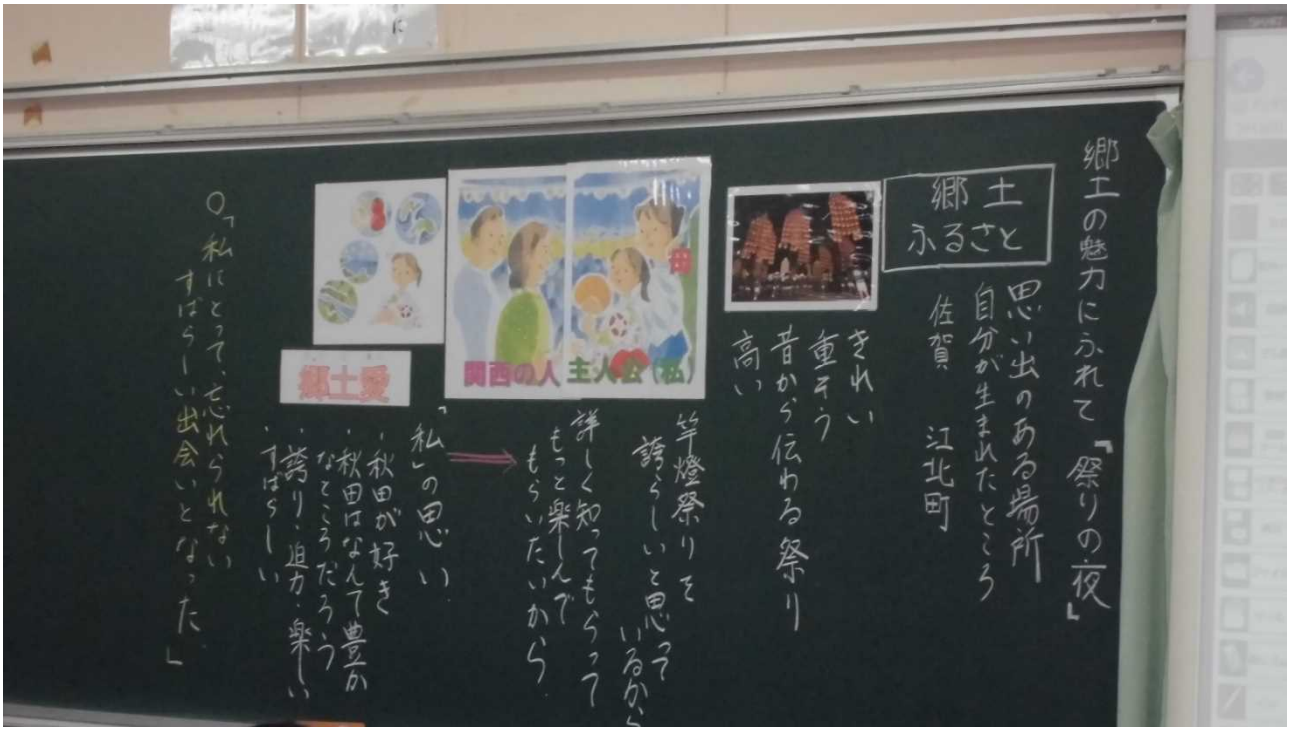
②　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

6　展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・) 中心発問(◎)	教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見つめる つかむ	1　郷土・ふるさとについて確認する。	○人にとって郷土・ふるさととは、どのような場所ですか。 ・自分が育ったところ　・佐賀、江北 ・お盆に行くところ	・郷土・ふるさととは、人にとってどのような意味合いがあるのか理解させる。
	2　竿灯まつりについて知る。	○竿灯まつりを見て、どのような印象を受けましたか。 ・きれい　・幻想的　・歴史を感じる	・秋田の竿灯まつりについて、映像を交えて説明することにより、イメージをもたせる。
広げる・深める	3　祭りの夜を聞いて、作者の思いについて考える。 【書く活動①】	○作者が、「知っていることを全部話してあげたい」、と思ったのはどうしてですか。 ・せっかく秋田に来てもらったから。 ・秋田の魅力を知ってほしいから。	・作者が主体的に郷土について説明したいと思った理由について理解させる。
	4　祭りの夜を聞いて、「私にとって素晴らしい出会いとなった」理由について考える。 【書く活動②】	○今回の経験が、女の子にとっても「私にとって忘れられないすばらしい出会い」になったのですが、それはどんなことに気づくことができたからですか。 ・秋田のことをＰＲできたことで、自信を持てたから。 ・関西の人に喜んでもらえて、うれしくなったから。 ・秋田のことを知らないことに気づけたから。 ・秋田の良さを見つけることが大切だとわかったから。 ・自分の育った秋田のことを誇りに思えるようになりたいと思った。	・どのようなこと気づいたからだけでなく、どのように思っていたのか、からも考えさせる。Ｔ２はＴ１と対極になるように机間巡視を行い、書けない生徒へのアドバイス言葉かけをする。
見つめ直す	5　江北町の文化や伝統、自然について想起し、郷土のために	○江北町には、どのような文化や伝統、自然がありますか。 ・天子社の夏祭り　・八町の祭り	・コロナ感染防止のためグループでの対話活動が難しいので、教師との対話

	自分ができることを考える。 【書く活動③】 【対話活動】 生徒　⇔　教師	・かんかん石　　・身代わり観音 ・アスパラガス　・お米 ・長崎街道小田宿 ・馬頭観音堂楠樹　・白木聖廟・孔子像 ・祖子分の面浮立　・花祭地区の彼岸花 ◎郷土のために、自分ができることはどのようなことだろう。 ・コロナで天子社の祭りがあるかわからないけれど、ある時は積極的に参加して祭りを盛り上げたい。 ・面浮立を受け継いで、自分の子どもにも伝えていきたい。 ・家のアスパラ農家を次いで、もっと江北の特産として広めていきたい。 ・住みよい街になるように、将来は役場に努めたい。	を行う。 ・Ｔ２が江北町の特徴を口頭で伝える。生徒の意見を共通理解することで、江北町の良さを改めて知る。 地域社会の一員としての自覚をもち、郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする生徒
	６　本時の感想を書き、学習を振り返り、シートにまとめる。		・振り返りシートに感想を書かせて、自分の考えをまとめさせる。

７　実際の板書



８　ワークシート

「祭りの夜」　　第１１回 ７月 １７日（火）

２年（　　）組（　　）号
名前（　　）

１　「私にとって忘れられない、すばらしい出会い」になったのはなぜですか？

２　江北町の魅力について紹介しよう。

人	先人 有名人	
こと	伝統行事 伝統芸能 方言	
もの	文化遺産 特産品	

９　考察

今年度の授業づくり推進部の視点は、

①　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

②　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

以上の２点を協議の柱として授業研究を行うこととしている。そのため研究協議では、この視点に絞って付箋紙を利用しながら意見交流会を行った。以下、本時の授業に対する意見や感想である。

①について

○　補助発問「江北町には、どのような文化や伝統、自然がありますか。」という江北町の有名なものとして考えさせたため、生徒にとっては、大変身近なものとなった。

○　中心発問へつなげる補助発問のなげかけが自然にできていたため、生徒は無理なく自分のこととして、ワークシートに記入できていた。

○　中心発問の「郷土のために、自分ができることはどのようなことだろう。」は大変良かった。

◆　江北町の良さを紹介させるロールプレイがあったら、もっと良かった。

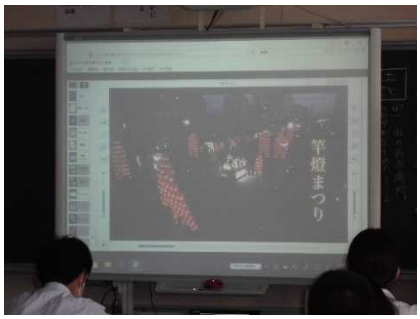
◆　中心発問までの発問が多すぎた。中心発問までの補助発問を絞れば、後半の時間がとれたのではないか。発問③から④へそのまま言葉でつないでも良かった。また「キーワード」で考えさせても良かった。補助発問「私にとって素晴らしい出会いとなった」では、中心発問につなげるためにも、ワークシートに記入させずに自由な発言、発表でも良かったのではないか。

②について

○　教師と生徒の関係が大変よく、Ｔ１と生徒、Ｔ２と生徒の対話活動ができていた。

○　生徒の家業とつなげるなど、自由に発言できる良い雰囲気で対話活動ができた。

◆　教師のモデル発表ではなく、生徒が行っている「流鏑馬」の話をさせた方が良かった。



資料１
秋田の灯篭祭り

資料２
書く活動

資料３
Ｔ２と生徒の対話活動

10　指導助言より

(1)　教材によっては、対話活動が合わないものもある。この教材では、郷土（人、物、祭り事）などのジャンルごとに分けてＰＲさせる方法もある。

(2)　「流鏑馬」のことをもっと話をさせた方が良かった。また、その生徒のことを認めてあげることが大切。また、「Ａさんが数年後にできることは何だろう。」と他の生徒に投げかけても良い。

(3)　生徒が的外れな発言（発表）をした時は、「どういうこと？」「どんな意味なのか、誰か助けてくれない。」など、切り返すことも大切である。

(4)　デジタル教科書は朗読より長くなるので、教師による朗読の方が良い。また、視点を与えてから朗読に入ると効果的である。

研究授業（３年生）　第３学年１組道徳科　学習指導案

生徒数　□□名

指導者　Ｔ１　□□　□□

Ｔ２　□□　□□

１　主題名　弱さと向きあって　【　Ｄ ― (22) よりよく生きる喜び 】

２　教材名　「 足袋（たび）の季節 」　（　新しい道徳３　東京書籍　）

３　主題の設定理由

○ねらいとする価値について

人は、時として人間のもつ弱さや醜さから誘惑に負け、過ちを犯したり失敗したりすることがある。こうしたとき、自らの弱さや醜さを素直に認め、その克服に努めて、人間らしい温かい心や謙虚な心を育てていくことが大切である。特に中学生のように若い時期には、過ちを犯したり失敗したりすることは誰にでもある。大切なことはその経験を生かすことである。それまでの経験と反省をふまえて、今までの自分よりもより望ましい行動や態度をとれることが人としての成長である。誰にも間違いや失敗があることを自覚させ、自らの正直で謙虚な心で、間違いや失敗を克服する態度を養いたい。

○生徒の実態について

中学生の時期は誘惑に負けたり、やすきに流れたりする傾向が見られる。その中で自信を失ったり、劣等感にさいなまれたりすることがある。しかし、その一方で、理想とする生き方に関心が高まってくるときでもある。本学級の生徒たちにも同じ傾向が見られる。

本学級の生徒たちは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために長い臨時休業を経験した。その後も、体育大会などの学校行事が延期されたり普段の授業でグループ活動が制限されたりしている。１学期の終盤を迎え、学級全体に対してや特定の個人に対してようやく互いの思いを伝え合うができるようになりつつある。

○教材について

本時の資料は、大正時代末期の北海道の小樽での話である。貧しい生い立ちでありながら、郵便局で働き始めた作者が足袋を欲しいあまりに、餅売りの老婆から釣り銭をごまかしてしまう。作者は老婆からの「ふんばりなさいよ」という一言をいつまでも忘れずに後悔と自責の念に苦しみ、自らの人格を回復することができなくなる。その後、老婆を訪ねようとした作者が老婆の死を知り、それをきっかけに老婆からもらった心を支えに生きていくことを決意するという話である。作者が自分の犯した過ちを謙虚に受け止め、前向きに生きていこうとする生き方は、生徒に深い感動を与えるとともに、人として共感を得られる話である。人間の弱さや醜さを自覚させ、人間としての誇りをもって生きようとする前向きな態度を育てるのに有効な教材であるといえる。

○指導について

指導にあたっては、まず資料の話が大正時代の頃であるために写真資料などを用いて当時の様子を理解させたい。それとともに、時代が変わっても変わらない価値の高い人間の生き方があるということに気づかせたい。

また、この資料の話は、前述したように深い感動を与えるとともに、人として共感を得られる教材である。そこで本時はこの「共感」をキーワードに授業を進めていきたい。導入で事前アンケートの生徒たちの体験を紹介したり、前半の発問では心情円を用いたりして互いの気持ちを交流させたい。更に、他者の考えをもとに自らの考えが広がったり深まったりしたことが気づけるように、対話内容を記録するワークシートの活用にも試みたい。このワークシートは初めて活用するため、模範的な交流内容を紹介することで、今後の学習の参考にさせたい。

中心発問である「おばあさんが私にくれた心とは、どんなことだろう」について考えさせる活動では、グループでの意見交流を通して各自の学習のまとめにつなげたい。その際には補助発問を用いて、作者が人として成長していく姿を気づかせたい。

4　本時のねらい

自らの弱さや醜さを理解し、それを克服しようとする強さや気高さのあることを自覚し、人間としての誇りをもって生きようとする前向きな態度を育てる。

5　ねらいに迫るための指導の重点

①　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

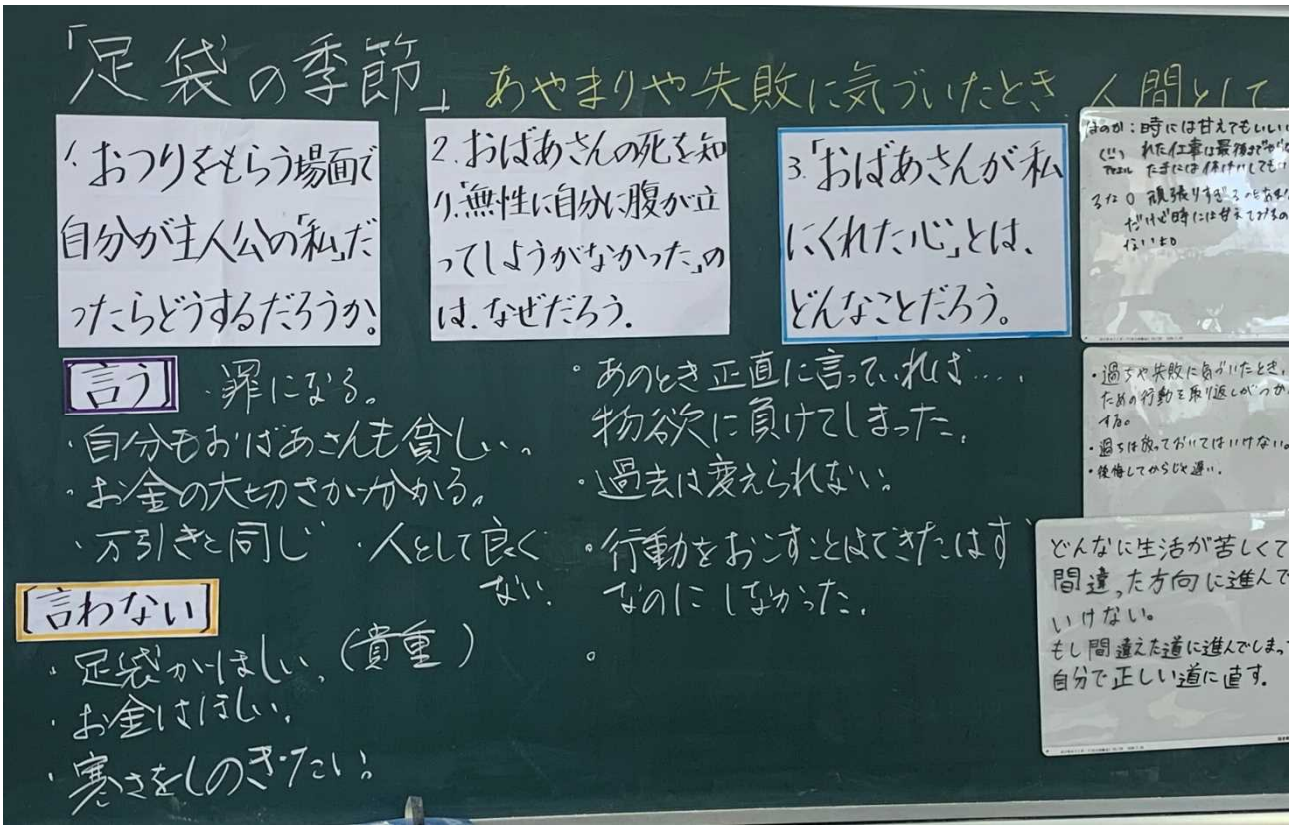
②　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

6　展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・) 中心発問(◎)	教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見つめる つかむ	1　事前アンケートにふれ、めあてを確認する。	○友だちのこんな経験は自分にもありませんか。	・学習のめあて「あやまりや失敗に気づいたとき、人間としてどう行動することが必要だろう」をおさえる。
	2　小樽市の環境や大正時代の生活について知る。	○これらの写真を見て、どんなことを思いましたか。 ・雪が多くて、とても寒そう。 ・貧しい暮らしをしている。	・小樽市の雪写真や大正時代の街並み、服装などの写真を掲示することで、当時の生活を捉えさせ、足袋がないと厳しい環境であることをおさえる。
広げる・深める	3　主人公の「私」の立場となって考える。 【書く活動①】 【交流活動①】 旅行学習 ↓ 全体	○おつりをもらう場面で、自分が主人公の「私」だったらどうするだろうか。 【言う】 ・おばあさんを騙すことになるから。 ・おばあさんに悪いから。 【言わない】 ・これで足袋を買うことができるから。 ・今まで、泣くほどつらかったから。 ＜問い返しの発問＞ ○足袋が買えなくなってもいいのか。 ○おばあさんを騙して、後悔しないか。	・心情円を使って、【言う】【言わない】の割合を表し、ワークシートに自分の考えと理由を記入させる。 ・旅行学習で、心情円の割合とその理由について意見交流し、ワークシートに記入させる。その後、模範となる交流内容を発表して紹介させる。 ・【言う】【言わない】の意見をそれぞれ発表させることで、全体で意見の確認を行う。その後、おつりをもらった時の主人公の葛藤に迫れるように問い返しの発問を行う。（Ｔ１、Ｔ２）
	4　教材の後半部分を読み、その後の主人公の気持ちを考える。	○おばあさんの死を知り、「無性に自分に腹が立ってしようがなかった」のは、なぜだろう。 ・もっと早く来ていれば謝ることができたのに、もうどうしようもない。	・教材の後半部分(p112 の２行目)から範読を行う。（Ｔ２） ・足袋を買うためにおばあさんを騙してしまった主人公であったが、それから正直に言えなかったことによる「自責の念」や「あ

		・許せない自分を挽回することができない悔しさがあった。	まい考え」などの後悔の思いが出てきたことをおさえる。
	5　おばあさんが「私」にくれた心について考える。 【書く活動②】 【交流活動②】 グループ ↓ 全体	◎「おばあさんが私にくれた心」とは、どんなことだろう。 ・真面目に誠実に生きていくということ。 ・貧しく苦しい生活でも、豊かな心をもつこと。 ・自分に正直になり、精一杯生きることの大切さ。	・個人で考えた後にグループをつくり、意見交流を行う。 ・役割分担を行い、グループの考えをホワイトボードにまとめる。 ・単なるおばあさんの優しさではなく、「私」が考えさせられた生き方について考えさせる。 【補助発問】「この後主人公は、どのような人生を歩んでいったのだろう」
見つめ直す	6　感想や交流活動を通して考えたこと、感じたことを振り返りシートにまとめる。	○自分が考えたことや感じたことを振り返りシートに書こう。	自らの弱さや醜さを克服する強さをもち、人間として気高く生きようとする心情。

7　実際の板書



8　ワークシート

「 足袋の季節 」　　第8回　7月13日（月）

３年（　　）組（　　）号　　名前（　　）

１　おつりをもらう場面で、自分が主人公の「私」だったらどうするだろうか？

理由

言う　　言わない

☆【旅行学習】で、自分の考えに近い人と２往復の会話をしてお互いの考えを深めよう！

自分

（　　）さん

自分

（　　）さん

２　おばあさんの死を知り、「無性に自分に腹が立ってしようがなかった」のは、なぜだろう？

３　「おばあさんが私にくれた心」とは、どんなことだろう？

９　考察

今年度の授業づくり推進部の視点は、

①　発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。

②　対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

以上の２点を協議の柱として授業研究を行うこととしている。そのため研究協議では、この視点に絞って付箋紙を利用しながら意見交流会を行った。以下、本時の授業に対する意見や感想である。

①について

○　時代背景などをおさえたことで、「おつりをもらう場面で私だったらどうするか」の考えがスムーズに出すことができていた。よって、その後の対話活動に上手くつながった。（**資料１**）

○　おつりをもらう場面では最初は【言う】、【言わない】の割合が半分ずつだった。その後の「無性に自分に腹が立ってしようがなかったのは、なぜだろう」の発問を行うことで、主人公が自分の心の弱さを後悔していることに共感させることができていた。中心発問では、本時のねらいとする意見も出ていた。

◆　中心発問ではねらいとする意見も出ていたが、それ以外の意見も多く出ていた。よりねらいとする内容に迫れるようにするためには、授業の最初に提示しためあてに戻って生徒に質問するとよかった。

◆　時代背景が現在と大きく違うため、授業のまとめとして、「自分たちがこれから失敗に気づいたとき、どんな行動をしていきたいか」と質問するとより自分のこととして考えることができた。

②について

○　意見を書く前に自分の気持ちを心情円で表したことにより、ワークシートにその理由をスムーズに書くことができていた。自分の意見をもつことができていたので、対話活動も積極的に取り組むことができていた。（**資料２**）

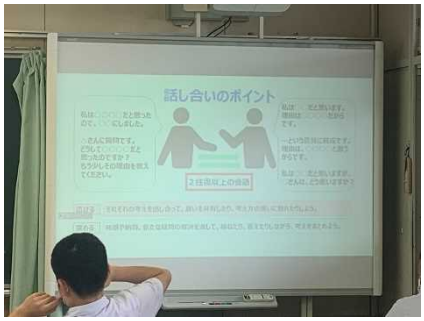
○　対話活動を行う前に、対話活動のポイントをパワーポイントで見せた、また、Ｔ１とＴ２で対話の例を聞かせたことで、目標としていた２往復以上の会話ができていた。さらに、引き続き練習していくことで、もっとスムーズにできるようになると考えられる。（**資料３**）

○　パワーポイントの対話活動のポイントは効果があったと思う。これからの積み重ねで、異なる視点で話を切り返す手法などができるようになれば、より充実した対話活動になると考えられる。

◆　対話活動のときには自分の考えが視覚化する手立てとして、心情円を持たせたまま行う予定だったが、その指示をするのを忘れていた。

資料１
時代背景の説明

資料２
心情円で考えを表す



資料３
話し合いのポイント

10　指導助言より

(1)　今回の対話活動では、あえて反対意見を言わせるように仕組むようにすると、それに対して踏み込んだ意見が出るかもしれない。両方の立場を経験しないと対話が深まらない場合もある。

(2)　発問については、おばあさんが言った「ふんばりなさいよ」がどんな気持ちで主人公に言ったのかなどのおばあさんの思いについて考えることもポイントとなる。主人公がおつりをごまかしたことをおばあさんが気づいていたかについて考えさせることから始める方法もある。

(3)　まとめについては、５人分の意見をみんなで１～２文につなげてまとめさせる手法もある。授業の始めにめあてを出したなら、最後にめあてにつなげるようにして振り返りを行うようにする。

４　成果と課題

(1)　成果

・　昨年度に引き続き、全教師による道徳授業を実施することとし、授業づくりから授業実践まで取り組むことができた。全学年がティーム・ティーチングによる授業を実施するだけでなく、同じ教材を用いて他学級でも授業を行うなど、各学年の実態や生徒の状況に応じた授業実践を行うことができた。

・　昨年度授業で使用した授業構想シート(授業の流れや発問、対話活動の形式などをまとめたシート)やワークシート、スライドなどのデータを活用することで、教材研究における個人の負担の軽減につながった。また、発問の構成や内容、ワークシートの検討などを行うことにより、指導法の工夫・改善に取り組むことができた。

・　道徳教育を通して、学校・地域とのつながりをつくるために保護者に向けての道徳授業の実施を計画した。しかし、コロナウイルス感染予防のために今年度は実施をすることができなかったが、生徒に向けて行った授業についての道徳通信を発行した。その中に保護者の感想や家庭で話題にしたことを記述する枠を設け、本校の道徳授業について情報発信を行うとともに、保護者の意見や感想も知ることができた。来年度以降もこのようなことを継続していき、保護者や地域の学校の教育活動に対する関心を高め、学校行事（授業参観、学年育友会、教育講演会）などへの参加のきっかけづくりにつなげていきたい。

・　研究授業も各学年で、計画的に取り組むことができた。昨年度に引き続き研究授業の視点を「発問の構成」「対話活動の手立て」とし、その後の授業研究会では、２つの柱を中心に研究討議ができ、互いに道徳授業の力量を高める良い機会となった。来年度から道徳の教科書が変わり、新しく扱う教材も出てくることから、今後も教材研究を全職員で実践していく素地ができてきた。

(2)　課題

・　道徳授業の指導法の工夫・改善として、対話活動の手立てをあげていた。昨年度の授業の研究会で対話活動はほとんどの生徒が積極的に取り組むことができていたが、互いの意見を発表するだけで終わることがあるという意見が出ていた。そこで、授業づくり推進部で「話し合いのポイント」を作成し、対話活動をより充実したものとなるようにした。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、休業明けの授業では、対話活動を取り入れることが難しくなり、「話し合いのポイント」があまり浸透させることができなかった。来年度からは、道徳オリエンテーションの時間に「話し合いのポイント」を活用した対話活動を計画し、また、他教科の授業でも活用していく必要があると考える。

・　今年度の研究テーマである「心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育」をより充実させていくためには、他の部会との連携を深める必要がある。例えば、体験活動推進部では、事前・事後に体験活動に関する道徳授業の計画を行う。心の教育推進部では、生徒の自己有用感を高めるために、構成的グループエンカウンターの内容の検討などが挙げられる。

「体験活動推進部」の取組

1　研究のねらい

地域に根差した道徳教育の研究を推進する。体験活動を通して生徒の道徳性を育み、地域社会の一員としての役割と自覚を高める。さらに、活動場所を学校から家庭、地域へと広げることで、多くの人とのふれあう場面が設定でき、授業で体得した道徳的諸価値観を活かし、自己有用感の向上につなげていく。

2　研究内容

(1)　家庭や地域との関わりを深めていくために、道徳授業の様子の発信（活動の実施）

ア　他学年の生徒や来校者に道徳の授業の様子を伝えるために、道徳コーナーを充実させる。

イ　道徳の授業内容を通信にまとめ、地域や家庭に情報発信していく。

(2)　地域との関わりを重視した体験活動を模索し、生徒会活動や清掃活動、ボランティア等の実施

ア　地域に出て活動することで、地域との関わりを強める。

イ　活動に道徳的価値を付加して、深めていく。

(3)　各活動の中で、家庭や地域へとつながっていく体験活動の実施

ア　各教科の単元項目や活動の中で、家庭や地域に関わる活動を見つける。

イ　活動に道徳的価値を付加して、深めていく。

3　研究の実際

(1)　道徳コーナーの充実

道徳の授業の様子を模造紙１枚にまとめ、生徒玄関に掲示した。学年ごとにまとめ、月に１回程度更新することとし、項目については、タイトル、教材、授業風景、中心発問、生徒の感想とした。掲示後は教育委員会に持って行き、公民館の入口に掲示してもらい、地域への情報発信することができた。校内の道徳コーナーでは、登校時や休み時間等に写真や感想を読んでいる生徒の姿も見られた。

資料１　地域への掲示（町公民館）

資料２　実際の道徳コーナー（校内）

(2)　道徳活動の情報発信・道徳通信「こころ」

１カ月間で実施した道徳の授業の中から１つの教材を選び、学年ごとに道徳通信を発行した。学校での統一感を出すために、タイトルを「こころ」として、学年を記述するようにした。学年の各家庭に配布したり、教育委員会に持って行き、の入口等に掲示してもらったりして、家庭や地域へ道徳活動の情報発信ができた。家庭から返信もあり、双方向での情報のやり取りができた。

江北中２年
道徳通信　こころ
令和２年７月７日
６月号
文責：井上弘

■内容について　教材名「六千人の命のビザ」

■活動の様子（授業や資料）

○メインになるための質問○
「あなたがお思うこの話なら、ビザを発行しますか」

○生徒が考えるメインの質問○
「命のビザとは、どんなものだったのだろう」

下記の教材は、２種の例です。

※裏へ続く

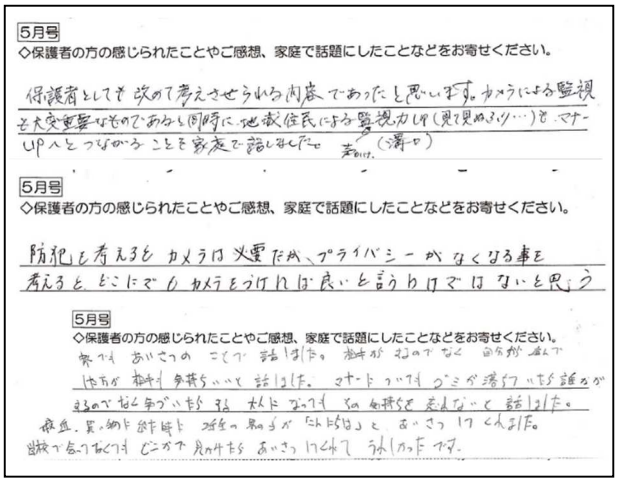
５月号
◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

■生徒の感想

・私だったら、「自分や家族に影響がある。けど助けたい。」と絶対悩んでしまします。でも、杉原さんは目の前の人を救うと覚悟を決め、ビザを発行したのですごいと思いました。
・千鈴さんの立場だったら、少し迷うかもしれないし、ビザを発行することで、日本の国が危険にさらされたり、家族に危険が迫る。でも、これだけの人が助けを求めているのに見捨てることはできないし、だから、最終的には自分は違いていると思います。
・目の前の人を見捨てるわけにはいかず、日本に帰るギリギリまで、できるだけのビザを発行したので、一人でも多くの命を救えたからすごいと思う。
・実際に、その場面で判断した千鈴さんはとてもすごいと思いました。僕なら、ずっと悩んで考え込みます。千鈴さんの、「人を守りたい、助けたい」という気持ちは、心の中にたくさんあったんだと思います。その結果、ビザを出して正解だったんだと、思いました。
・六千人もの命を一人で救えたことは、すごいなと思った。何かをやり遂げるためには、何かをあきらめなければいけないこともあるけど、杉原さんはできる限りのことをやることができた。残念ながら残された人もいたけど、これだけの人の命を救うきっかけを作ったのだから、本当にすごいと思った。
・命のビザを書いた杉原千鈴さんは、とても勇気のある人だと思いました。自国の地位や立場、大事な家族に迫る危険をおかしてまでも、たくさんのユダヤ人の命を優先するという決断をしたからです。とてもすごいことだと思います。

写真：杉原千鈴

写真：https://www.kanaloco.jp/article/entry-2295.html　より


5月号
◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

保護者としても改めて考えさせられる内容であったと思います。カメラによる監視は大変重要なものであると同時に地域住民による監視カメラ（見て見ぬふり…）をマナーUPへとつながることを家庭で話しました。（清水）

5月号
◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

防犯も考えるとカメラは必要だが、プライバシーがなくなる事を考えると、どこでもカメラをつければ良いとは言うわけではないと思う

5月号
◇保護者の方の感じられたことやご感想、家庭で話題にしたことなどをお寄せください。

資料３　道徳通信・２年・６月号

資料４　保護者からの返信

(3)　あいさつ運動【生徒会活動】　<u>※関連内容項目：B-（７）礼儀</u>

昨年度は月に１回程度（第１火曜日）、それぞれの校門前まで小中交流のあいさつ運動を行い、学期に１回程度、地域に出かけてから学校近くの交差点に小中合同で立ってからのあいさつ運動を行った。当初の計画では、活動場所を広げ、地域の交通安全運動と連携を図ってのあいさつ運動を計画していたが、新型コロナウィルスの影響で実施することが難しくなった。そこで、学校前の道路を通行するドライバーには地域の人も多く含まれるので、パネル等を使ってのあいさつ運動を行うことにした。休業期間もあり、最初の活動は、教師が作成したパネルを使用して行った。そこから、「もっと大きく掲示したほうが見やすいのではないか」「自分たちで言葉を考えてみてはどうか」などの意見が出てきた。そこで、生徒のメッセージを加えたのぼり旗を活用したあいさつ運動を行った。恥ずかしがる生徒もいたが、学校に戻る時には笑顔も多く見られた。また、昨年同様に地域のボランティアの方とも、一緒にあいさつ運動を行うことができた。活動の最後には、地域の交通指導員の方から「お疲れさま」と声をかけてもらうなど、コミュニケーションをとることもできている。

資料５　あいさつ運動の様子１

資料６　のぼり旗制作の様子

資料７　あいさつ運動の様子２

朝、玄関前に立つようになって元気に挨拶を返してくれる人もいれば、何も返してくれない人もいます。みんなが元気に返してくれるように、私も笑顔で元気に挨拶をしていこうと思いました。

私たちが通学中の小学生や中学生にあいさつをすると元気よくあいさつをしてくれる人たちがいたので、あいさつを返してもらうことは嬉しいし朝から気分が良くなったのでいい活動だなと思いました。

資料８　あいさつ運動をしての感想

(4)　啓発運動【清掃活動】　※関連内容項目：C-(12) 公共の精神

５月 31 日に実施される県内一斉ふるさと美化活動で、小中学生と保護者での参加を啓発する計画だった。事前に道徳の授業で、「勤労奉仕」や「郷土愛」等の単元を取り扱うことや、生徒会でポスターを作って掲示したり、前日に放送で参加を促したりする活動を考えていたが、新型コロナウィルスの影響で中止となり、実施できなかった。

(5)　アルミ缶回収【ボランティア】　※関連内容項目：C-(11) 社会正義

年間を通して生徒・教職員からアルミ缶の回収をし、ある程度の量が集まったところで福祉作業所「チューリップのうた」に届けている。小学校でも同じ取り組みをしているが、昼休みや放課後の時間が合わないことから別々に届けることになっている。昨年度は、ポリ袋 9 袋分を 12 月 4 日の昼休みに届け、大変喜んでいただいた。「チューリップのうた」との交流の中では、アルミ缶のリサイクル作業で感謝状をもらわれた話や、アルミの原料であるボーキサイトを新たに製品にするのよりもリサイクルをした方がエネルギーは 30 分の 1 で済むという話もしていただき、生徒の環境保全への意識も高まった。また、今年度も作業所の方から、「中学校の活動に感謝しています。」などの言葉をいただき、生徒の自己有用感を高めることのできる活動となった。道徳の授業とも関連させやすいので、今後も地域との連携を図り、継続して行う計画である。

資料９　回収中のアルミ缶

資料 10　袋詰めしたアルミ缶を運ぶ様子

資料 11　アルミ缶を渡す様子

学校からちゅうりっぷまで、空き缶をもつのはたいへんでした。
ただの空き缶が少しでもお金にかわって役に立てばいいなと思います。今後も進んで活動できればなと思いました。

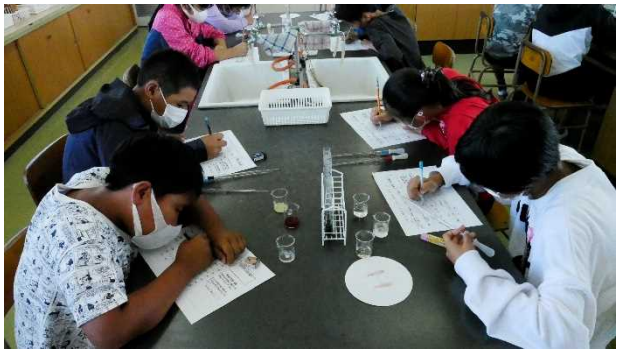
たくさんの空き缶が集まって、それがだれかの役に立つと思ったら、すごくやりがいを感じました。これからもこういう活動をしていきたいと思いました。

資料 12　アルミ缶回収をした感想子

(6)　小６の１日体験入学【縦割】　<u>※関連内容項目：C-(15) よりよい学校生活</u>

１日体験入学は、実際に中学校で学校生活を送ることで小学校との違いを体験してもらい、４月からの入学をスムーズにするための活動である。10 月８、９、12 日の日程で、１クラスずつ来校してもらい、活動した。昨年度は、小学生からの質問に中学１年生が回答する活動を行ったが、今年度は新型コロナウイルスの影響で中止とした。理科、数学、美術の授業を体験した。

資料 13　授業の様子１



資料 14　授業の様子２

(7)　社会福祉協議会主催の夏祭り【ボランティア】　<u>※関連内容項目：C-(12) 社会参画</u>

昨年度までは、校内でお化け屋敷運営のボランティアを募り、18 名程度の生徒がお化け屋敷を運営し、夏祭りを盛り上げてきた。今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となり、実施できなかった。

(8)　幼児とのふれあい【保育】　※関連内容項目：B-(９)相互理解、寛容

３年生の家庭科の授業において、「家族・家庭と子どもの成長」の単元で、幼児について学習を行っている。その中で、実際に「幼児とのふれあい体験」を実施することで、幼児の体や行動の特徴の理解を深める。今年度は２クラスあるため、11 月中旬にクラスごとで２回行う予定である。場所は江北町幼児教育センターで行っているが、地元の園ということでＯＢやＯＧも多い。自分の幼児のころを懐かしんだり、当時の保育士の先生と再会したりと、幼児との交流の時間は、生徒たちにとって、自己の成長を確認する貴重な時間にもなっている。

資料 15　幼児と触れ合う様子【昨年度】

(9)　町内清掃【ボランティア】　※関連内容項目：C-(12) 公共の精神

毎年、生徒たちが生活している町内の美化環境を図るために、校内でボランティアを募集し、活動している。放課後の時間にもかかわらず、毎年たくさんの参加者が集まっている。清掃するコースを生徒が話し合いで決定し、毎年たくさんのゴミを集めることができている。

道路の側溝や草むらの中にまで足を踏み入れて、小さなごみまで見逃さないように懸命に集める生徒が多かった。今年度は、12 月頃に実施予定である。

資料 16　清掃の説明の様子【昨年度】

資料 17　清掃活動の様子【昨年度】

(10)　コンサート【部活動】　※関連内容項目：C-(16) 郷土を愛する態度

音楽部の生徒が、町主催のビッキー祭りや文化祭で合唱を披露している。たくさんの町民の方が参加するイベントでの披露ということもあり、生徒にとっても良い発表の機会となっている。参加者の評価も高く、毎年好評のため、ずっと町からの出演依頼が続いている。本年度は、新型コロナウィルスの影響で中止となり、実施できなかった。

(11)　しゃくなげ訪問【ボランティア】　※関連内容項目：C-(16) 郷土を愛する態度

町内にある介護老人保健施設「ユートピアしゃくなげ」で、毎年クリスマス会が行われているが、そこで、出し物や発表を行っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で訪問が難しい状況にあり、何か別の形で会を盛り上げることができないかを考えている。

資料 18　発表の様子１【昨年度】

資料 19　発表の様子２【昨年度】

(12)　町民運動会【ボランティア】　<u>※関連内容項目：C-(13) 勤労</u>

今年度、町民運動会の補助員のボランティアを募り、運営に協力する計画や準備を行っていた。しかし、昨年度は近隣地域の大雨や洪水被害の影響等で、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

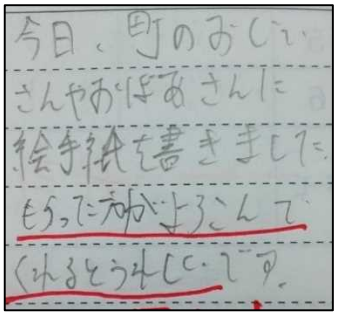
(13)　敬老の日の絵手紙制作【ボランティア】　<u>※関連内容項目：C-(12) 社会参画</u>

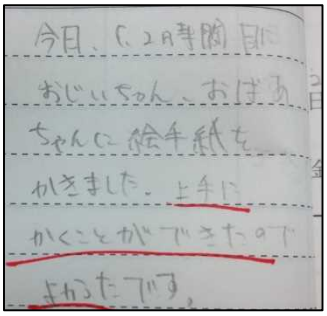
新型コロナウイルス感染防止の影響で、町内の様々な行事が中止となっている。町からの依頼で、敬老の日に向けて、小中学生で絵手紙を制作し、郵送しようとする取り組みが計画された。そのため、中学校においては、町内の絵手紙サークルの方を講師に招き、クラス単位で制作に取り組んだ。まず、「おじいさんの気持ち」という生徒作文の教材を扱い、生徒の高齢者に対する優しさや心配りの意識を高めた。そして、絵の具や色ペンなどを使って、野菜や果物などを葉書に描き、高齢者をいたわる文字を添えて、１人２枚ずつの絵手紙を完成させた。その日の学活ノートに感想を書いている生徒も多くいた。また、後日地域の方からのお礼の手紙が届き、朝の会で文面を紹介すると生徒の笑顔も多く見られた。

資料 20　絵手紙の書き方の説明

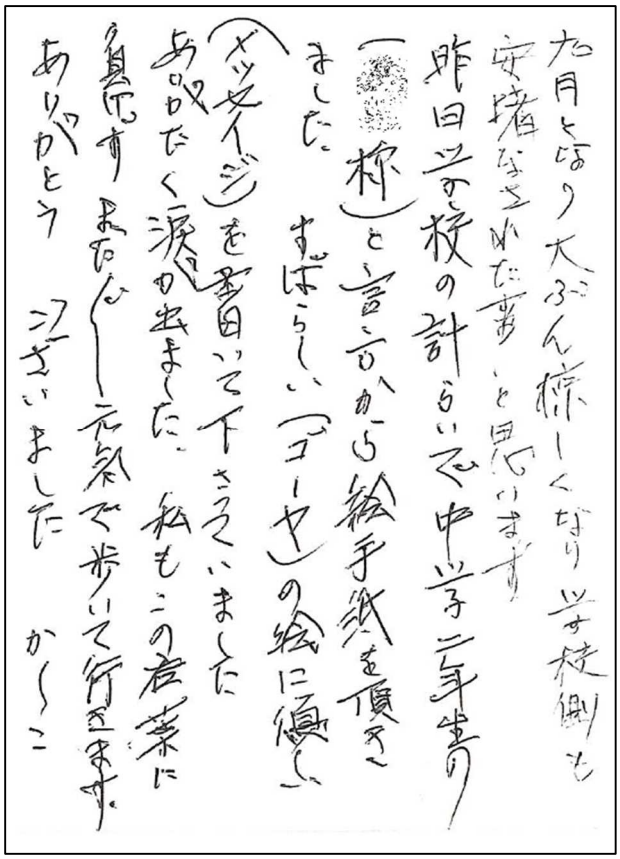
資料 21　講師の先生とのやりとり

資料 22　実際の生徒作品


今日、町のおじいさんやおばあさんに絵手紙を書きました。もらった方がよろこんでくれるとうれしいです。


今日、この時間に、おじいちゃん、おばあちゃんに絵手紙をかきました。上手にかくことができたのでよかったです。

資料 23　学活ノートの感想


九月となり大ぶん涼しくなり学校側も安堵なさいたのと思います
昨日学校の計らいで中学二年生の[redacted]様と言葉から絵手紙を頂きました。すばらしい(ゴーヤ)の絵に優しい(ダッシュイジ)を書いて下さいました
あふれてく涙が出ました。私もこの君達に負けずまたしっかり元気で歩いて行きます。
ありがとう　ございました　かしこ

資料 24　地域の方からのお礼の手紙

今回の絵手紙作成で僕は、新型コロナウイルス感染症によって会う機会がなくなったので、いつまでも元気でいられるようにという気持ちで描きました。
この絵手紙で誰かが元気になってくれたら嬉しいなと思います。

資料 25　絵手紙制作後の感想

4　研究の成果と課題

(1)　成果

- 研究内容(1)「家庭や地域との関わりを深めていくために、道徳の授業の様子を発信する」では、道徳通信や道徳コーナーの充実を図ることで、地域や家庭に向けて情報発信を実施できた。また、保護者の感想や意見を授業に取り入れたことで、生徒の授業に取り組む意欲も向上した。
- 道徳科の授業の中で生徒の活動する様子の写真を活用したことで、授業の感想などにもより身近に教材を感じさせることができたなどの内容の記述が増えてきた。
- 例年より活動は少なかったが、絵手紙制作の活動などを通して、生徒の意識が地域へと広がった。活動の感想からもそのことを感じることができた。

(2)　課題

- 今年度行った各活動において、さらに地域や家庭への情報発信を増やすことで、生徒の自己有用感がさらに高まるような手立てをとる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、育友会などの組織と連携して活動の場面を設定し、生徒の活動機会を広げる。

「心の教育推進部」の取組

1　研究のねらい

研究主題である「心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育～学校・地域とのつながりを通して～」の実現のため、本部会では、「心を支え、心を育てる～自己有用感を高め、お互いに認め合う関係づくりを目指して」良好な人間関係づくりと支持的風土に満ちた学級づくりの研究を進める。

2　研究内容

(1)　生徒同士・教師と生徒間の関係づくりの構築

ア　朝の会での健康観察を通した生徒との交流

イ　授業態度連絡ノートの活用

ウ　学級通信や学年通信での意欲喚起

エ　i-check 分析による支援の共通理解

(2)　生徒の出番を増やす場の設定

ア　ハートタイムの充実

イ　生徒朝会や学年別朝会の活性化

ウ　計画的な構成的グループエンカウンター

エ　読み聞かせ時の感想発表

3　研究の実際

(1)　部会としての取組

ア　朝の会、帰りの会の進行内容と健康観察における質問事項の提案

イ　ハートタイムのマスコットキャラクターの掲示

ウ　生徒会との連携による１分間スピーチのモデル紹介

エ　各月の誕生者紹介カードの掲示

オ　ハートタイム実践交流会の実施

(2)　各学年の主な取組

ア　１学年　　「１分間スピーチ」と「学年合同朝の会」

１学年では、１分間スピーチのテーマを生徒自身で考え、中学校生活で頑張りたいことや将来の夢、時事問題など、幅広いテーマでスピーチをすることができた。学級委員が中心となり、原稿の準備や次にスピーチをする人への声掛けなどを行い、生徒主体で活動した。また、スピーチや感想を発表した後には、拍手で終わるようにした。このように、授業では積極的に発表できない生徒にとっても、人前で話す良い経験になっている。スピーチを聞いた生徒は「〇〇さんの好きなことを知れてよかったです。」「将来の夢をかなえられるように頑張ってください。」などの感想を発表しており、互いのことを知ることができた。さらに、クラスメイトの目標や夢を尊重することができる良い機会になっている。アンケートの結果からも、９割以上の生徒が１分間スピーチを通して、クラスメイトの新たな一面を知ることが「できた」、「まあまあできた」と回答しており、話し手に対して興味・関心を持って聞くことができていた。

また、各学級の学級委員と専門部代議員が中心となり、毎週金曜に学年合同朝の会を行った。生徒で週目標を決め全体に伝える。そして、次の週に、前の週の週目標について個人の反省を各

クラス１名ずつ合計３人が発表する。１週間を振り返ることで、自分自身と向き合うことができている。さらに、専門部代議員が学校生活において、各専門部の気づきや気をつけてほしいことを連絡したり、教師の体験談などを聞いたりして、生徒たち自らの生活を見つめ直し、自他共に有意義な生活を送る意識づけができた。生徒が主体的に活動し、互いに認め合い、共に生活していこうとする取組ができた。今後、学年全体で構成的グループエンカウンターを行い、生徒同士の共感的人間関係を構築していきたいと考えている。

イ　２学年　　「構成的グループエンカウンター」と「１分間スピーチ」

２学年では、新しい学級に不安や戸惑いを感じる生徒の困り感を減らすために、４月に構成的グループエンカウンターの「さいころトーキング」を行った。４人グループでそれぞれのお題について自由に話をし、交流した。生徒の振り返りシートによると、「自分のことが言えたので良かった。友達のことを知ることができた。」などの意見が多く、楽しく活動できたようだ。

また、昨年から継続して行っている１分間スピーチでは、学級委員が発表日の前日までに原稿の確認を行い、話し手が発表当日に自信をもってスピーチができるようにしている。話す内容に関しては、話しやすい内容を自由に決めることができるため、ほとんどの生徒が１分近く話すことができた。クラスによっては、１分間スピーチノートを準備し、以前のスピーチ原稿を参考にして自分のスピーチを考えることもできるようになっている。アンケート結果においても約７割の生徒が「ハートタイム（１分間スピーチ）の時間が楽しい」と回答している。昨年の結果と比較してみると、その数は１割程度増えている。また、「スピーチをしてどうだったか」の質問に対しては、約４割の生徒が「緊張した」と答えてはいるものの、「よかった」、「まあまあよかった」と答えている生徒が約７割に上った。このことから、生徒は、１分間スピーチを通して、概ね達成感や充実感を得られたものと推察できる。さらに、約９割の生徒が、１分間スピーチを通してクラスの人の新たな一面を知ることが「できた」、「まあまあできた」と回答しており、友だちのスピーチに興味・関心を持って聴くことができているようである。以上の結果から、２年生の多くの生徒が、ハートタイムの時間に対して、前向きに取り組んでいることがうかがえる。さらに、「授業態度連絡ノートや学級（学年）通信の頑張った人欄に名前が書かれると、どう思いますか」に対しては「嬉しい」、「まあまあ嬉しい」が約９割、「自分の名前が書かれている誕生日カードが教室に掲示されていることを、どう思いますか」に対しては「うれしい」「まあまあ嬉しい」が約７割という結果から、それぞれ自己有用感や自己肯定感を高める手立ての一つになったと思われる。

資料１　学年合同朝の会

資料２　構成的グループエンカウンター

ウ　３学年　「きらりノート」と学級通信・個々の特性に配慮した指導

３学年では、昨年度に引き続き、善行の奨励とその承認のために「きらりノート」を各クラスと職員室に準備した。気づき、行動する力を育て、自主的に行動する態度を養いたいという職員の思いからである。昨年度からの継続実践ということで、善行への意識は、ある程度定着してきた。プリントの配布や、ゴミ集め、係の手伝いなど、教師が声をかけなくても自然に行動できる生徒が増えた。他学年の先生から、「３年生は自分から『手伝います』と言ってくれます」という声をもらうようにもなった。最上級生として、各行事で中心となって活動する際に、その実行委員やリーダーは全て立候補とし、学年全員の投票で決定するなど、自主性を育むことを意識して指導してきた。また、１人１役を基本とし、できるだけ多くの生徒に活躍の場を与えられるよう配慮した。学級だよりでは個人の活躍や道徳科の授業における感想を毎週掲載し、学年だよりでは「きらりノート」を参考に生徒の善行を紹介した。

３年生は、昨年度のアンケート結果から、約半数がスピーチの時間を苦手としていることが分かっていた。（「ハートタイム」の「スピーチの時間は楽しいですか」に対して「楽しくない」「あまり楽しくない」と答えた生徒が約５割。）特に自分の考えをまとめること、人前に立って発言することに抵抗を感じる生徒がいることもあって生徒主体の活動ができていなかった。このような生徒たちの特性を踏まえ、他学年とは違う取組の必要性を感じたため、スピーチ原稿について教科の授業や教科担任と連携し、スピーチ原稿を書く時間を確保した。さらに原稿が書けない生徒には教師が個別支援を行って準備させた。しかし、７月末現在のアンケート結果を見ると、全体としてハートタイムが「楽しい」と感じるまでには至っていない。スピーチについては、同じテーマの発表が続くことによるマンネリ感などが原因として考えられる。一方、「スピーチをしてどうでしたか」という質問に対して、「よくなかった」と答えた生徒がいなくなったことを見ると、配慮が必要な生徒たちの、ある程度の変化を捉えることができる。昨年は一度も発表できなかった生徒が、クラスで発表できたケースもあった。今後、必要な生徒たちには支援を行いながらも、生徒にとって充実した楽しい活動になるよう、取組方法を再検討していきたい。

資料３　１分間スピーチ

(3)　教師アンケートの実施

	質問項目	年度	よくできている (%)	だいたいできている (%)	あまりできていない (%)	できていない (%)
Q1	生活全般で生徒の出番を増やす活動を取り入れることができたと思いますか。	元年	１１	５６	３３	０
		２年	２３	７７	０	０
Q2	学級通信や学年通信を用いて、生徒の善行などを紹介しましたか。	元年	7	４３	５０	０
		２年	8	６７	２５	０
Q3	ハートタイムで１分間スピーチの時間を確保できていますか。	元年	３３	５４	１３	０
		２年	５０	３３	１７	０
Q4	学年朝会で生徒が発表や活動を行う機会を設けていますか。	元年	１３	８０	7	０
		２年	５８	４２	０	０
Q5	健康観察や学活ノートなどを通して、生徒とのコミュニケーションを図っていますか。	元年	１３	８１	6	０
		２年	３１	４６	２３	０
Q6	授業態度連絡ノートを生徒の意欲喚起に活用していますか。	元年	6	５９	３５	０
		２年	２３	６２	１５	０

４　研究の成果と課題

(1)　成果

・　夏休みに、ハートタイム実践交流会を実施し、各学年の１分間スピーチや学年集会などの取り組みを共有して、2学期からの活動につなげることができた。

・　第１回目のハートタイムの中で、ハートタイムをイメージしたマスコットキャラクターの提示や生徒会によるモデルスピーチの実践をすることで、全校生徒に向けてハートタイムに取り組む姿勢と意識付けを徹底させることができた。

・　教師アンケートによると、全ての項目に関して、「よくできている」と回答している割合が昨年度よりもあがっており、良好な人間関係の構築や支持的風土作りなどに対する教師自身の意識の変化が伺える。

(2)　課題

・　１年生では、アンケートによると、ハートタイムの時間は「あまり楽しくない」、「楽しくない」や、スピーチをして「あまりよくなかった」、「よくなかった」と回答した生徒がそれぞれ２割程度いるので、人前で話す経験を積み、苦手意識をなくすことができるような手立てを講じる必要がある。

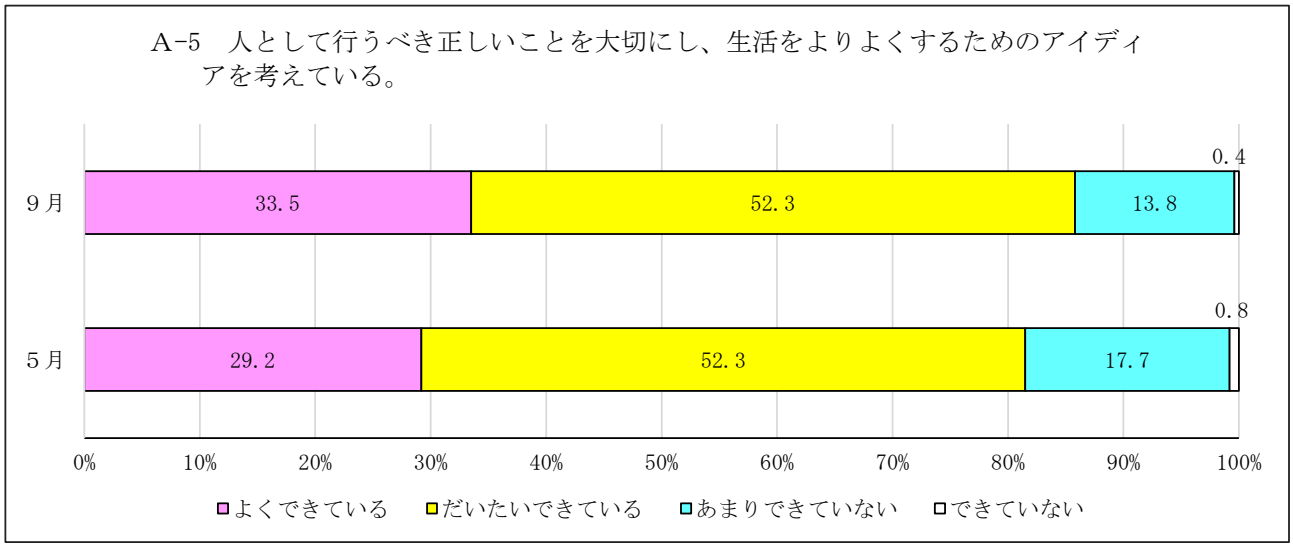
・　２年生では、１分間スピーチ後の感想を言うことに対して、アンケートによると約４割の生徒が難しいと感じている。スピーチを聞いて、即興で率直な感想を伝えることができるような手立てを講じる必要がある。

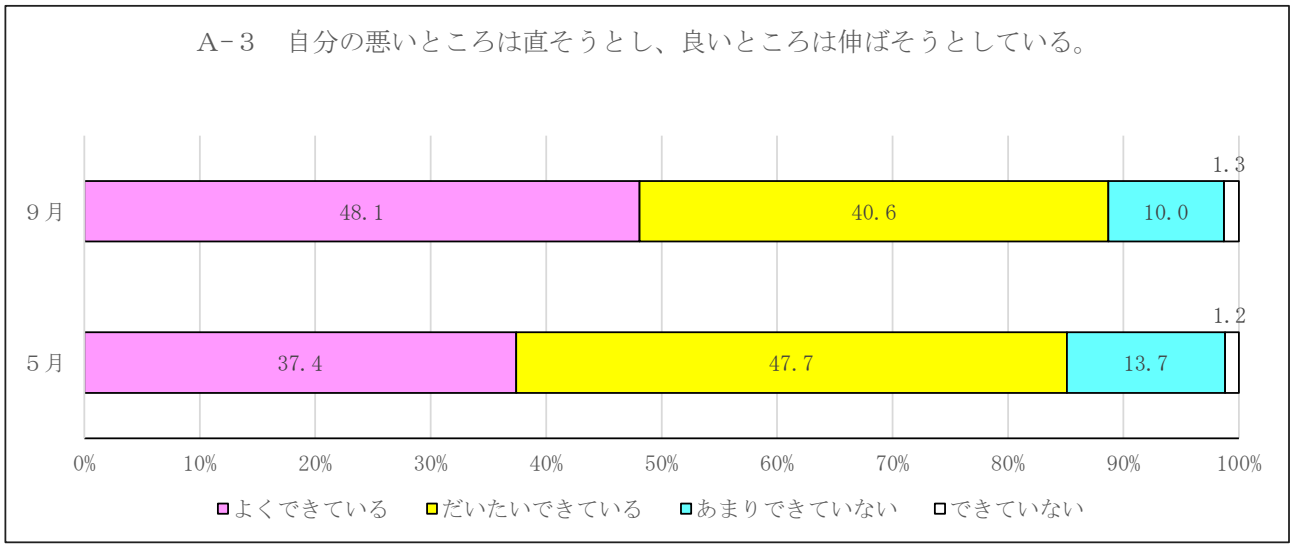
・　３年生では、コミュニケーションや表現活動に特性上の困難を有する生徒や配慮を要する生徒が比較的多いため、様々な場面で交流活動を仕組み、認め支え合う喜びを体感させたい。

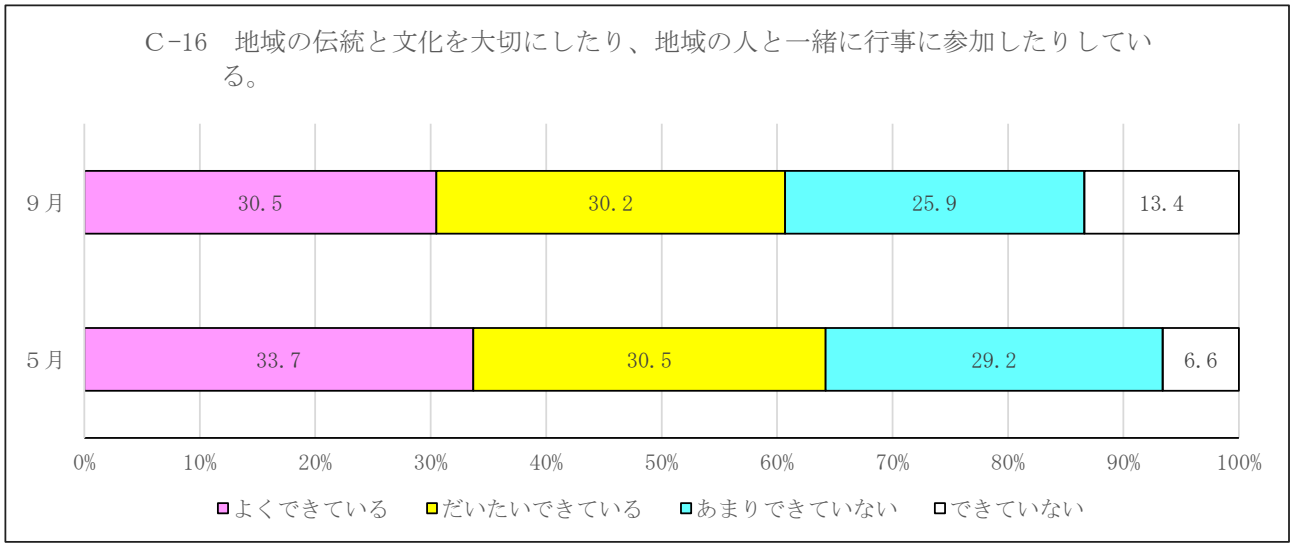
次年度に向けて

昨年度から２年間道徳教育の研究指定を受け、授業づくり部、心の教育推進部、体験活動推進部に分かれて、全職員で「みんなで道徳」を合言葉に「特別の教科　道徳」に取り組んできた。今年度は昨年度から取り組んでいることはそのまま継続し、新たな課題について、それぞれの部会で研究し、実践してきた。今年度、授業に関しては第１、第３、第５水曜日に学年部会を設定し教材研究の時間を確保したことで「考え、議論する」道徳の実践のため、発問の工夫や授業形態の工夫、学び合い活動などを取り入れ、１つの教材をさまざまな切り口から育みたい道徳的諸価値についてよりよい方法を探る姿勢が見られた。また、全学年、時間割を合わせることで、指導内容を共有し、役割分担して、全職員が道徳教育に関わることができた。そこで、量的確保がなされ、質的改善が図られたと考えられる。

アンケートの分析







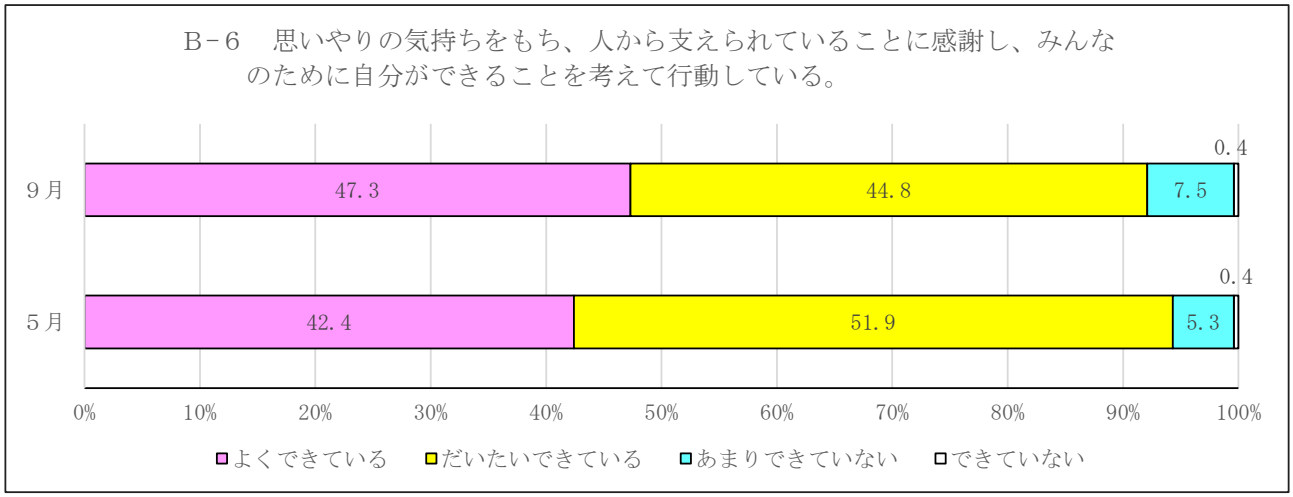


図１　全校生徒のアンケートの回答結果および比較

全学年の生徒を対象とした今年度の５月と９月に実施した道徳アンケートの結果を比較すると、22 項目中 16 項目で肯定的な回答が増加していた。これは、全職員で毎週、道徳科の授業に取り組んできた成果であると考える。特に、「人として行うべき正しいことを大切にし、生活をよりよくするためのアイディアを考えている。」では 4.3 ポイント、「自分の悪いところは直そうとし、良いところは伸ばそうとしている。」では 3.5 ポイント上昇している。これらの２項目においては、生徒が授業で考えたことや感じたことを実生活にも取り入れ、自他の生活の向上にも目を向け、生活を送っていることがうかがえる。そのように考えると、授業のねらい（中心発問や授業の流れなど）を生徒目線にすることで生徒は深く、広く考えるようになり、実生活に生かす機会も増え、道徳性がさらに豊かになるのではないかと考え、今後の授業づくりのポイントとして活かしていきたい。

逆に「地域の伝統と文化を大切にしたり、地域の人と一緒に行事に参加したりしている。」では 3.5 ポイント、「思いやりの気持ちをもち、人から支えられていることに感謝し、みんなのために自分ができることを考えて行動している。」では 2.1 ポイント低下している。前者では、今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな学校・地域の行事が中止される中で例年のように交流ができなかったことが原因ではないかと考える。教材にふれ、学んだことを地域に戻すことで、中学生なりに地域とのつながりができていくものだと改めて考えさせられた。また、後者では道徳科の授業を学ぶことで「思

いやり・感謝」の価値の水準が高まり、高まった水準と自分を比較したところ、その水準まで達していないと感じた結果であると考えた。私たち教員も道徳科の授業づくりにおいて、価値の置き方やどの部分を中心に授業を展開するか、など、教材を読み進めるたびに考え・気づくことがある。生徒も同じように、今まで考えていた「思いやり・感謝」の深さなどに気づき始めているのではないか、とも考えた。

◇参考文献

・『小学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』　平成 29 年 7 月　〈文部科学省〉
・『第 39 回　近畿小学校道徳教育研究大会　兵庫大会　研究冊子』　平成 29 年度
・『令和元年度　奈良大会　研究冊子』　令和元年度
・『小学校道徳　指導スキル　大全』　2019 年　永田繁雄編著　〈明治図書〉
・『総合単元的道徳学習論の提唱　構想と展開』　1996 年　押谷由夫著　〈ぶんけい〉
・『特別の教科　道徳　評価について』　平成 30 年３月　京都市教育委員会
・『考え、議論する道徳』授業へ向けて　平成 31 年１月　佐賀県教育委員会
・『中学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』　平成 29 年 7 月　〈文部科学省〉
・『令和元年度　道徳教育指導者養成研修　研修のしおり』　令和元年度
・『吉野ヶ里町立東脊振小・中学校　研究紀要』　平成 27 年度・28 年度
・『太良町立多良小・中学校　研究紀要』　平成 29 年度・平成 30 年度
・『第 45 回　九州地区道徳教育研究大会　研究冊子』　令和元年度
・『白石町立有明中学校　道徳科　研究発表会　研究冊子』　平成 30 年度・令和元年度

おわりに

江北中学校では、昨年度文部科学省および佐賀県教育委員会の指定を江北小学校とともに受け、「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の一環として、小中連携の基、道徳教育の研究に取り組んでまいりました。

昨年度の研究主題「小中連携を通した道徳教育の探究　～道徳科の授業づくりと体験活動を通して～　」を、今年度「心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む道徳教育　～学校・地域とのつながりを通して～　」と、道徳科の授業を中心とし、全教育活動を通して道徳教育の充実をより図るために、学校教育目標と連動させ地域を巻き込んだ取り組みを行うことができるようにと設定しました。

「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、３つの部会（授業づくり推進部、心の教育推進部、体験活動推進部）を設け、実践を重ねてまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、「考え、議論する道徳」の在り方について、また、副主題にある「学校・地域とのつながり」を意識した授業づくりや体験活動について、模索しながら取り組んだ１年でもありました。その中で明らかになってきたこともありますが、課題が残されたのも事実です。

本日は、各学年１学級で授業を公開させていただきました。皆様からいただいた貴重なご意見やご助言を参考にさせていただきながら、更に研究を充実させていきたいと考えています。

終わりになりましたが、本日の授業研究会に参加いただいた学校職員の皆様、教育関係機関の皆様、本当にありがとうございました。これまで私たちの研究にご指導、ご助言をいただきました多くの先生方に感謝申し上げ、今後一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げ、終わりの言葉と致します。

令和２年 11 月９日

江北町立江北中学校
教頭　　武富　幸就

ご指導いただいた先生方

令和元年度		令和２年度
江北小学校	江北中学校	江北中学校
押谷　由夫　教授（武庫川女子大学大学院教授）		江上　　緑　指導主事 （教育庁学校教育課） 河村　　賢　指導主事 （西部教育事務所） 高取須賀子　研修員 （佐賀県教育センター） 大宅　正樹　教諭 （武雄市立橘小学校）
山﨑　秀隆　指導主事 （佐賀県教育センター） 平川　敏誠　指導主事 （佐賀県教育センター） 佐藤　幸規　教諭 （基山町立基山小学校） 道徳科スーパーティーチャー	大宅　正樹　指導主事 （西部教育事務所） 高取須賀子　研修員 （佐賀県教育センター）	

研究同人

江北小学校		江北中学校		江北中学校	
校　長	熊本　輝美	校　長	納塚　定生	校　長	納塚　定生
教　頭	西村　真二	教　頭	武富　幸就	教　頭	武富　幸就
主幹教諭	中島　進	教　諭	村山　裕基	指導教諭	大石　隆基
指導教諭	三原　直美	教　諭	戸坂　陽子	教　諭	村山　裕基
教　諭	菊次　進士	教　諭	田中　靖	教　諭	戸坂　陽子
教　諭	石戸　栄人	教　諭	櫟村　哲也	教　諭	大串　斉生
教　諭	金子さつき	教　諭	古川　英昭	教　諭	田中　靖
教　諭	武富　千保	教　諭	井上三智子	教　諭	櫟村　哲也
教　諭	白濱久美子	教　諭	内山　啓子	教　諭	井上三智子
教　諭	石隈　敏子	教　諭	森岡　伸彦	教　諭	内山　啓子
教　諭	森田さおり	教　諭	村山加代子	教　諭	森岡　伸彦
教　諭	里見美佐子	教　諭	森　茂	教　諭	村山加代子
教　諭	有内　一浩	教　諭	小柳久美子	教　諭	森　茂
教　諭	堂角田敏孝	教　諭	西村　吉視	教　諭	秋永　修一
教　諭	南里　朋子	教　諭	木下　祐智	教　諭	木下　祐智
教　諭	八木友香理	教　諭	井上　弘康	教　諭	井上　弘康
教　諭	吉浦　蕗子	教　諭	栗山　文子	教　諭	武田　宏美
教　諭	藤田　博文	教　諭	田中　晋一	教　諭	大屋友紀子
教　諭	永田　優葉	教　諭	重松　健太	教　諭	田中　晋一
教　諭	宮地　知秋	教　諭	大野　美恵	教　諭	重松　健太
教　諭	末安　大祐	養護教諭	田原　泉	教　諭	岩永　悠平
教　諭	白石　健介	副主査	村井　雅俊	養護教諭	井手登志美
教　諭	中山　遙	講　師	宮﨑　啓太	主　事	川路彩也華
教　諭	大川内哲平	講　師	野田奈津実	講　師	田島　隆一
教　諭	井上めぐみ	講　師	荒木　昌美	講　師	中島　裕也
教　諭	古川　文菜			講　師	東島　彩
養護教諭	藤﨑眞由美				
栄養教諭	福田由香里				
事務主任	坂井　孝輔				
講　師	小野　真理				
講　師	前田　幸一				
講　師	藤瀬美代子				
講　師	山下美和子				
講　師	伊藤多寿子				
講　師	百武　大輔				